



CHIBA
UNIVERSITY

文学部
法政経学部
1号棟

Faculty of Letters
Faculty of Law,
Politics & Economics

千葉大学 文学部案内 2025-2026

行動科学コース

歴史学コース

日本・ユーラシア
文化コース

国際言語文化学
コース

目次	文学部へようこそ（文学部長）	1
	文学部の4年間	4
	文学部の歴史	6
コース紹介		
行動科学コース		7
	（哲学専修、認知情報科学専修、心理学専修、社会学専修、 文化人類学専修、先進科学プログラム 人間探求先進クラス）	
歴史学コース		16
日本・ユーラシア文化コース		23
	（日本語・日本文学専修、ユーラシア言語・文化専修）	
国際言語文化学コース		30
	（言語構造専修、英語圏文化専修、ヨーロッパ文化専修、 超域文化専修）	
大学のキャンパスの施設		38
国際交流		40
留学体験記		41
卒業後の進路		45
卒業生からのメッセージ		48
学生生活についてのQ & A		51
資料		52
取得可能な資格		55



文学部へようこそ



文学部長 内山 直樹

「文学」という言葉は、中国の古典『論語』にも見える古い言葉です。それは「徳行」「言語」「政事」と並んで、孔子の学園における4つの目標の1つとされました。そこでの「文学」とは、詩文など狭義の文学作品に限らず、文化の全般にわたる豊かな教養を指しました。

文学部では人間の文化、そしてそれを創り出した人間そのものについて探究します。その範囲は人間の知覚や思考から言語・社会・歴史まで、東西の古典から現代のサブカルチャーまで及びます。それら多様な研究対象に対し、実験・フィールドワーク・史資料分析などの専門的方法を駆使してアプローチし、最終年次にはその成果を卒業論文に結実させます。

文学部ではそれらの方法を、特に2年次以降、少人数による実習・演習により徹底して身につけます。それと同時に、1学科4コースのコンパクトな構成のもと、他分野の教員・学生と常に身近に接し合える環境も整っています。専門の殻に閉じこもってはいは、視野が限定され、新しい発想は生まれません。かといって、いろいろな分野を摘み食いするだけでは、表面的になぞるばかりで、趣味の域を脱することができません。専門性と学際性の絶妙なバランスこそ、千葉大学文学部の特色の一つといえます。

大学での学びは、「何かについて知っている」ことを重視しません。そうではなく、大切なのは「何かについて知るためにはどうすればよいかを知っている」ことです。前者は情報であり、後者は方法です。現代ではメディアの発達により、情報へのアクセスは過去に比べ格段に容易になりましたが、その真偽や軽重を検証し鑑別する方法はまだ追いついていません。それどころか、ある意味では今日ほど「事実」への軽視が蔓延している時代もないとさえいえます。ここに大学の責務の一端があるといえるでしょう。

よく言われるように、文学部で学んだ内容は、すぐに何かの役に立つわけではありません。すぐに何かの役に立つものは、道具であって、方法ではありません。道具は、その目的に価値があるのであって、道具自体に価値はありません。しかし学問的方法は、それを身につけることによって、自身を取り巻く世界を論理的、批判的に捉え直すことが可能になるものであり、その価値は計り知れません。

COVID-19感染症の影響により、大学での学びも大きく様変わりしました。オンライン形式の授業や討論が拡充され、そのぶん面と向かっての交流の機会は減りました。これは学びの形が多様化し選択肢が増えたということであり、悪い面ばかりとは限りません。が、それと同時に、大学のもつ「場所」としての機能をあらためて見つめ直すきっかけともなりました。大学には日本各地、さらには海外から、年齢も文化的背景も違うさまざまな人々が集います。なかには「世のなかにこんなことを考えている人間がいたのか」と思うような、途轍もなくユニークな人もいて、そのような人との出会いが自分の人生に大きな影響を与えることもあります。近年、SNSや仮想空間のおかげで、人どうしの結びつく範囲は飛躍的に拡大しましたが、それでも大学における人間関係は、他に代えがたい特別なものです。この冊子を手にした一人でも多くの方が、千葉大学文学部ならではの充実した大学生活を経験されるよう、願ってやみません。

文学部とは

文学部とは何をすることでしょくか。名前の通り、「文学」について学ぶところでしょうか。もちろん、それは間違いではありません。でも、文学部で行うことはもっともっと広いのです。文学部とは「文」について学ぶ「学部」なのですから。

では、「文」とはいったい何でしょうか。『広辞苑』という辞書には、こう書かれています。「武に対して、学問・学芸・文学・芸術などをいう。」つまり、「文」とは「学問」や「学芸」そのものを意味する言葉でもあるのです。ですから、文学部とは「学問」や「学芸」を修める学部ということになります。そして、およそ大学というものが「学問」を修めるところだとするならば、文学部こそは、その名称からして、学問の根元をきわめる最も大学らしい学部ということになるのでしょうか。

千葉大学文学部の目指すもの

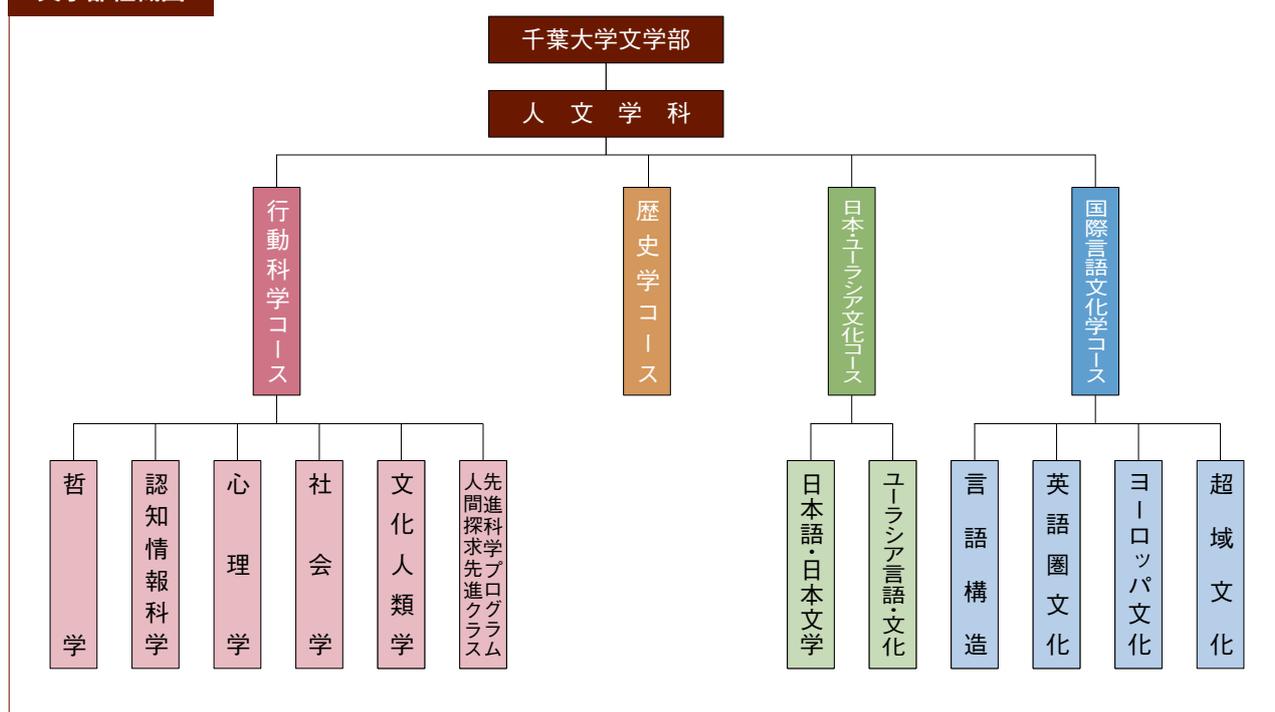
それでは、千葉大学文学部がどのような「学問」や「学芸」を修めるところか、より具体的に述べてみましょう。

「学問」や「学芸」といっても、その中身は実に多種多様です。伝統的な学問の区分の仕方として、人文科学、社会科学、自然科学という分け方があります。これら三つの「科学」の間の区別は決して固定的、絶対的なものではなく、相互に入り組み、密接に関連し合っているのですが、一応この分類に従うことにすると、千葉大学文学部が主としてかわるのは、人文科学の領域ということになるでしょう。文学部の「文」は、したがって人文科学の「文」でもあるのです。

では、人文科学とはどういうものなのでしょうか。それは、簡単に言えば、「人」間と人間の生み出す「文」化を対象とする学問のことです。もう少し具体的に言えば、人間とは何かという根本的問いに始まり、人間の思惟や知覚や認知の仕組み、文化の形成過程やその特徴、社会における人間関係のあり方、文化や社会の時系列的変容のすがた、世界のさまざまな地域での言語や文化の特性などの研究がそこに含まれます。千葉大学文学部は、このようにさまざまな視点から、人類にとっておそらく永遠の謎である人間自身とその文化をトータルに、また根源的に考察することをめざしています。

世の中は短期的な効率や利益を追い求めることに汲々としているようですが、人類の未来にかかわる複雑な諸問題（科学技術や産業の著しい発展と地球規模での環境破壊、情報化の進展と新たな格差の出現、国際化と民族・宗教間の対立など）を解決していく上でも、じっくりと人間や社会や文化の根源を見据える文学部での学問が、これからの時代にあってはますます重要性を増していくはずです。

文学部組織図



千葉大学文学部の教育の特徴

それでは次に、以上のような理念に基づいて行われる千葉大学文学部の教育の特徴について述べてみましょう。

1) 学際性と自律性

上に述べた理念や目的を達成するために、私たちは、広い教養教育（千葉大学では「普遍教育」と呼んでいます）を重視するとともに、所属するコース以外の他コースの授業を積極的に受講するように学生に指導したり、自分の関心に合わせて自由に専門分野を選べるようにしています。これは、学生の側から言えば、自分で解決すべき問題を見出して、自分で研究の計画を立て、それを実行していくということになります。

2) 少人数教育と高度な外国語および情報処理教育

しかしそのために教員はできる限りの支援をします。新入生を対象としたオリエンテーション・セミナー、少人数の演習や実習、卒業論文指導など、あらゆる段階できめ細かく学習のサポートをする体制を用意しています。

また、英語やその他の外国語の教育に力を入れており、文系の学部としては非常に高度な情報処理教育を実施し、優れた情報処理環境を備えています。

3) 国際性

文学部の教育研究は国際的に開かれています。学生みなさんに海外で学んでもらう体制を整備し、また多くの留学生を受け入れ、留学生と日本人学生との交流も盛んに行われています。大学全体としてもENGINEプラン（全員留学）によって、みなさんをサポートします。

4) 研究者養成と職業人養成

私たちは、将来の人文科学を担うことのできる研究者の養成に力を入れています。そういう研究者になることを希望する学生には、千葉大学大学院人文公共学府（博士前期課程・博士後期課程）、大学院融合理工学府（博士後期課程）への進学が開かれています。

しかし同時に私たちは、広い学問的裾野をもちながら専門の職能の資格を備えた職業人の育成にも努めています。教員免許状や学芸員資格に加えて、図書館司書資格も取得できます。

千葉大学文学部の求める人材

以上のように、千葉大学文学部は、すべての時代に通じる知識と技能を持ち、狭い学問領域にとらわれない人文科学的素養を身に付け、独創的発信力をもって社会に貢献するとともに、自らの人生をもより豊かなものにできる人材を育成します。そのために、日本語や外国語の高い運用能力、論理的、数理的思考能力、日本と世界の歴史・文化・社会に関する広い関心を持った人を求めています。みなさんの意欲に満ちた若々しくみずみずしい力を、私たちは心から歓迎します。



イングリッシュハウス

文学部の 4年間

—キャンパスライフ—

希望に満ちて文学部に入学された皆さんを、広い校内のメインストリートに満開に咲いたサクラが、教職員・先輩達とともに温かく出迎えてくれることでしょう。いよいよ4年間の大学生活のはじまりです。

緑豊かで安全な環境・キャンパスづくりには、全学的に環境ISO委員会が組織され、文学部でも積極的に取り組むとともに、校舎・教室などの設備も計画的に改善を行っています。教育においては、授業評価アンケートを実施し、皆さんの意見や要望を聞きながら教員自らも自己点検を行い、より良い授業内容やカリキュラム編成になるように努力しています。また、文学部では皆さんの教育・研究・生活面やハラスメントやカルトに関する要望や悩みについて、学生意見箱を設置するとともに前期と後期に学生・教員懇談会を実施し、随時対応できるよう取り組んでいます。

こうした教育・研究・環境の改善は、皆さんが充実した大学生活を過ごせるように、また将来、社会に出た時に少しでも役立てることをめざしていますが、皆さんの積極的な協力も是非とも必要です。そして社会に巣立つ卒業時には、「千葉大学文学部で学べてよかった」と思って、社会に羽ばたいてくれることを願っています。

■専攻分野について.....

文学部は4つのコースから構成され、コースごとに入学試験を行います。履修する内容は、コースによって異なり、またコースによっては、さらに細かな所属に分かれて独自のカリキュラムを履修していくことになります。ただし、各コースとも入門や基礎の授業を設け、導入教育を行っています。なお、詳しい内容は、コース説明（7ページ～36ページ）やホームページを参考にしてください。

行動科学コース：行動科学コースは、哲学、認知情報科学、心理学、社会学、文化人類学という5つの専修からなります。各専修では、人間の行動について異なるアプローチを取っています。学生は、2年次よりこれら5つの専修に分かれて履修します。各専修への振り分けは、1年次に何回か行われる専攻志望調査結果と各専攻分野の定員を基本にして行われます。自分が志望する専攻分野とその志望理由を自らに問い、先輩や教員とじっくり相談することが大切です。

歴史学コース：歴史学は、人類の生み出した文化や社会の諸相を、変化・発展という時間軸に沿って研究する学問です。本コースでは、いままでの日本史・東洋史・西洋史・考古学・美術史といった狭い研究領域の枠組みにとらわれず、相互の方法を融合した広い視野に立つ「新しい歴史学」の獲得を目指しています。したがって学生は、特定の地域・方法・分野に偏ることなく、自己の関心に応じて授業科目を履修していき、専攻分野が自然と決まっていくという方法をとっています。

日本・ユーラシア文化コース：日本語・日本文学専修、ユーラシア言語・文化専修の2つの専修がありますが、特定の専攻分野に振り分けるといった方法はとりません。学生が自主的にカリキュラムを組んで学んでいく中で、自然に専攻分野も決まっていくという方法をとっています。

国際言語文化学コース：言語構造専修、英語圏文化専修、ヨーロッパ文化専修、超域文化専修の4専修のなかから、2年次の4月に学生の希望をもとに所属が決定されます。英語の他にフランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語のいずれかを身に付け、欧米系の言語文化を専門的に学びます。

■普遍科目と専門教育について.....

千葉大学では、学部4年一貫教育を目指し、カリキュラムは大きく普遍教育科目と専門教育科目とからなり、ターム制に沿って授業科目を組み立てるようになっていきます。

普遍教育科目：幅広い教養と総合的な判断力を身につけ、豊かな人間性の育成を目的としたもので、英語科目、初修外国語、国際科目、地域科目、数理・データサイエンス科目、スポーツ健康科目、教養コア科目、教養展開科目などを履修します。人間と文化、現代社会と政策、人間と環境、自然と情報など広く深く学び、

隣接科学や学際領域の勉強もできるようになっています。

専門科目：各自の専門領域について学び、深め、さらに発展させることを目指したもので、系統的に専門領域が深められるようになっています。

各種の専門講義のほかには原書を読んだり、文献や種々の資料にあたって行う演習や、分野によっては実験、調査実習あるいは多様な資料を分析する実習などがあります。それらは少人数に分かれてきめ細かい指導が行われます。

学生は、入学時から学部にも所属し、4年間を通して普遍教育科目と専門科目を有機的に関連づけつつ学び、主体的かつ独創的に課題に取り組めるようになっています。また文学部では共通基礎科目として「人文科学の課題」、「国際交流論」などコースを横断した講義を設け、幅広い視野と専門領域の知識を十分に活かせるような工夫もなされています。

■ 4年生、就職活動と卒業論文について……………

多くの学生は3年生のうちにほとんどの科目の履修を終え、4年次には卒業論文を残すだけとなり、就職活動と卒業論文の作成に、あるいは進学のための勉強に力を傾けることとなります。

卒業論文：大部の卒業論文をまとめる苦しさ、まとめ終わったあとの、少し悔いを残しながらの充実感、この経験なくしては文学部の卒業生ではあり得ません。

卒論制作にあたっては担当教員による個別指導のための「卒業論文特別演習」とともに、卒論準備発表会が行われます。提出のあとにOG、OB、後輩たちの前で卒論の口頭発表をするという晴れがましい舞台も用意されています。

就職活動：人生において重要な場面でありながら、景気の変動や就職活動開始時期の変更など、外的な不確定要素に左右されるのが就職活動です。そのようなことから、どのように就職活動に臨めば良いか思い悩む学生も多くいます。千葉大学では、就職内定者や就職した先輩の体験発表会を開催したり、外部講師を招いてエントリーシートの作成法や面接マナーに関する講座を行ったりするなど、学部および全学レベルで学生の就職活動をサポートしています。多様な価値観をもつ文学部の学生の就職活動は、いつの時代にも個性的です。大企業にも受かりながら小さな出版社をとるという人も珍しくありません。文学部で学んだことを活かし、自分で選んだ道に邁進し社会で活躍してくれることを希望しています。

そして卒業と就職が決まった卒業式では教員や仲間達と将来への期待を分かち合いながら、めでたく社会人へ旅立たれることを願っています。



卒業式

文学部の 歴史

1949. 5. 31 千葉大学が設置され、千葉師範学校及び千葉青年師範学校を母体として学芸学部（学芸部及び教育部）が置かれた。
1950. 4. 1 東京医科歯科大学予科が千葉大学に包括されて、学芸学部は文理学部及び教育学部の2学部に変更された。
文理学部には、人文科学、社会科学、自然科学の3課程が置かれ、合わせて全学の学部学生のための一般教養課程も置かれた。
1968. 4. 1 文理学部が人文学部、理学部及び教養部に改組された。
人文学部には人文学科及び法経学科の2学科が置かれた。
1972. 4. 1 人文学専攻科が設置された。
1981. 4. 14 人文学部が文学部及び法経学部に分離改組された。
文学部には、行動科学科、史学科及び文学科の3学科が置かれた。
1985. 4. 1 大学院文学研究科（修士課程）が設置された。



1957年当時

1992. 4. 1 行動科学科に哲学、心理学、社会学に加え、文化人類学の講座が増設された。
1993. 4. 1 行動科学科に認知情報科学講座が増設された。
1994. 4. 1 文学部を改組。文学科が日本文化学科と国際言語文化学科に分離改組された。日本文化学科には、日本文化論、日本語学・日本語教育学、ユーラシア言語文化論の3講座が、国際言語文化学科には、比較文化論、文芸様態論、言語文化構造論の3講座が設置された。また、史学科には、歴史学に加え、文化財学、図像情報史学の2講座が増設された。
1995. 4. 1 大学院社会文化科学研究科（博士課程）が設置された。
1998. 4. 1 大学院文学研究科（修士課程）が単一の人文科学専攻に改組された。
2004. 4. 1 千葉大学が国立大学法人千葉大学となった。
2006. 4. 1 人文社会系の既存の大学院が統合・改組され、5年一貫の大学院人文社会科学研究科（博士前期課程・博士後期課程）が設置された。
2008. 4. 1 日本文化学科が日本言語文化論、ユーラシア言語文化論の2講座となる。
2016. 4. 1 一学科制（人文学科）となり、行動科学コース、歴史学コース、日本・ユーラシア文化コース、国際言語文化学コースが置かれた。
2019. 8. 9 文部科学省の大学院改革推進事業「卓越大学院プログラム」に本学ならびに連携機関による「アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム」が採択された。

なお、現在、千葉大学は、文学部、教育学部、法政経学部、理学部、医学部、薬学部、看護学部、工学部、園芸学部、国際教養学部、情報・データサイエンス学部の11学部を備える国立大学屈指の総合大学である。

行動科学 コース

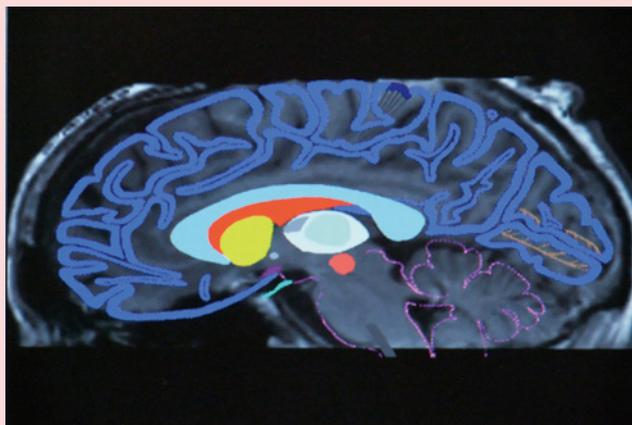


▲人間の知覚の不思議:『道路画像の角度錯視』 南門付近の道路画像。黒い点線で示した両路側がなす角度はどの程度の大きさでしょうか？
60度程度の角度に見える人が多いですが、実際には100度を超えています。(作成 一川誠教授)

■哲学専修 ■認知情報科学専修 ■心理学専修 ■社会学専修
■文化人類学専修 ■先進科学プログラム 人間探求先進クラス

「人間とは何か」 この最大の謎に挑む

人間の思考・行動・社会・文化を、
先賢の思惟の蓄積と現在の最先端の
知見から総合的にとらえる

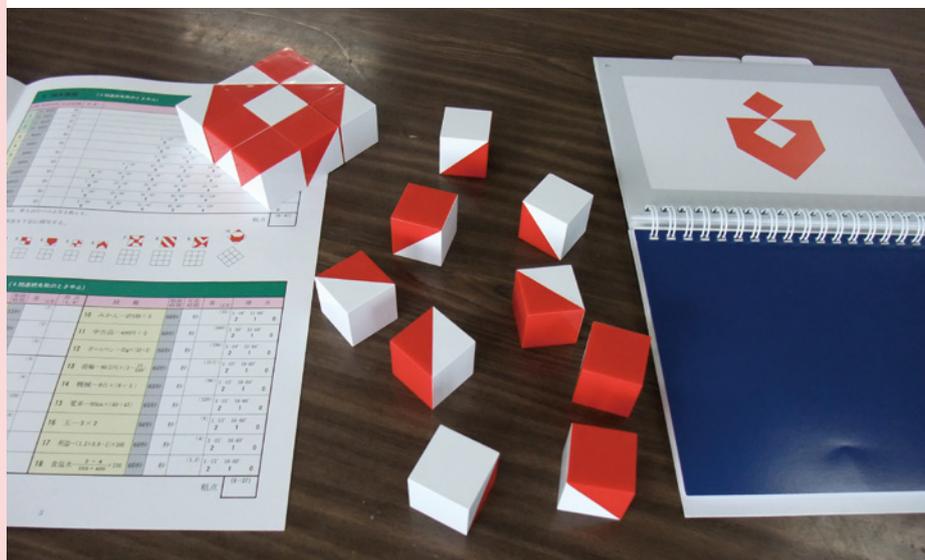


行動科学 コース

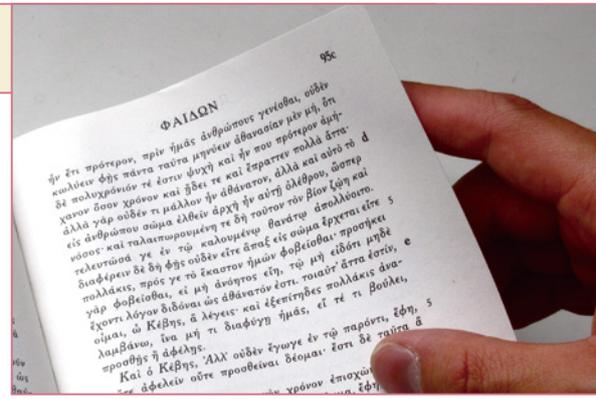
行動科学コースは、人間とその行動の多様な側面について、総合的かつ学際的な教育・研究を行うコースです。人間の行動を解明するためには、人間の意識や心（脳）の働き、人間の知的機能や人間の持つ生物としての特性などとともに、人間が作り上げた社会や文化などについて理解する多様なアプローチが必要です。このような要請に応えるために、行動科学コースでは、人間の行動に関する独自の研究方法や対象を持った、哲学、認知情報科学、心理学、社会学、文化人類学の5つの専修を設け、学生が幅広く多面的に学習できるようなカリキュラムを用意しています。

1年次には、4名程度の少人数グループで行う授業「人文科学入門」を履修し、担当教員の指導のもとで、大学での基本的な学習の仕方について学ぶとともに、各グループで独自のテーマを選択し、その問題について共同研究を行い、その成果を発表することで、自主的に行動科学に関連する問題の基本的な研究法を学びます。また同時に、各専修が用意する共通基礎科目を履修することによって、行動科学関連分野について基礎知識を習得すると同時に、各専修で行われている専門的な研究について具体的に知ることができます。2年次からは、学生は各自の関心に応じて5つの専修のいずれかに所属し、3年次にかけて、多様な専門講義科目や、実験・実習科目、さらには演習（ゼミ）などを通じて、より専門的な知識を習得し、卒業研究のための準備を行います。4年次には、それまでの勉学の総仕上げとして、卒業論文を書くことが求められます。各自が選択したテーマについて、多面的な視点から検討した上で卒業研究が行えるように、各教員によってきめ細かい指導が行われています。

人間は、他の動物と様々な面で共通性を持つとともに、人間固有の能力、性質を持ち、それにもとづいて社会や文化などを産み出してきました。行動科学コースでは、こうした人間の持つ独自性について、脳・神経レベルのようなミクロなレベルから、社会や文化といったマクロなレベルまで、幅広い視点から探求しています。その意味で、文系や理系といった規定の枠組みにとらわれず、人間やその行動について柔軟な視点からより深く知りたいという知的好奇心に満ちた学生を歓迎します。



▲ 認知的能力を測定するWechsler Adult Intelligence Scale



「哲学 (philosophy)」という言葉は、「知恵 (sophia) を愛する (philein) こと」を意味する古代ギリシア語に由来しています。この言葉を辞書で引くと、「世界や人生の根本原理を追求する学問」などと説明されていることが多いようです。ですが、このような説明を聞いても、哲学という学問に対する具体的なイメージを抱くことは難しいでしょう。実際、哲学とは何か、ということ、一言で説明することは困難ですし、あまり意味のないことでもあります。むしろ、そのように物事を一言で簡単に要約的に説明して納得してしまおうという態度を拒否することから、哲学するという営みが始まるということもできます。物事に対する既成の説明に簡単に納得することなく、自分の頭で丹念にゆくりと時間をかけて問い直し続けていくこと、そこに哲学という学問の本質があります。存在するとはどういうことか、認識するとはどういうことか、行為するとはどういうことか等、世界や人間の根本問題を言語によって徹底的に考え抜くということが哲学の課題です。

ですが、自分の頭で考えるということは、他者から学んだり、他者とともに考えることを拒むことではありません。それどころか、異質な他者との対話の中で自分の狭い思いこみを克服していくことこそが非常に大切になります。古代から現代に至る優れた哲学者の残した書物に触れる中で、私達は、丹念にそして正確に物事を考えるとはどういうことであるのかを示す優れた実例に触れ、自分で物事を考える際の枠組みを広げていくことができます。そして、教員や仲間の学生たちと議論を積み重ねていく中で、自分とは違うものの見方と出会い、自分のものの見方をより柔軟かつ堅固な仕方でも組み立て直していく訓練ができるようになっていきます。

混迷の度を深める現代世界の中で、物事を根本から問い直す能力を身につけることは、個人として生きるうえでも、また社会人としても、とても大切なことになっています。千葉大学の哲学専修には、古代ギリシア哲学から現代哲学、さらには中国哲学に至る各領域にわたり、知識や言語、存在や性質、学問や科学の条件といった様々なテーマを研究する教員が揃っているうえに、例年非常勤講師を招いて応用倫理学（生命倫理、環境倫理等）をはじめとする幅広い範囲の授業を提供しており、我が国屈指の哲学研究・教育の拠点の一つといえます。みなさんも、多様な教員や先輩や仲間との哲学的対話の中で、大学生活の数年間を過ごしてみませんか？

【和泉 ちえ教授】 自然探究および数学的諸学科の伝統を本質的に内包する古代ギリシア哲学・科学を研究している。あくまでも原典テキストの精緻な読解に基づきながら、従来の枠組みを書き換える作業を続けている。

【内山 直樹教授】 東アジアの知的伝統、なかでもその源泉に位置する古代中国の哲学を専門とする。知識人の生態や意識、学問体系や教育制度、口授や著述にまつわる諸習慣、といった具体的環境の解明を重視している。

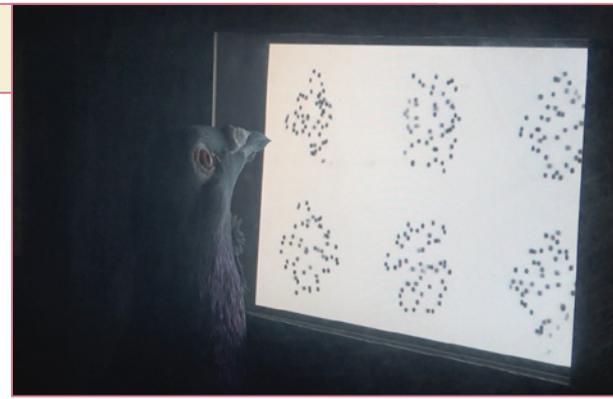
【山田 圭一教授】 ウィトゲンシュタインを中心とした現代分析哲学を専攻。「台所の言葉で哲学を！」をモットーに、知識の哲学、心の哲学、言語の哲学などの領域を横断しながら、われわれが普段当たり前だと思っている世界のあり方を問い直している。

【秋葉剛史准教授】 現代の形而上学（なかでも性質論）に軸足をおきつつ、心、真理、道徳といった各種の事象を統合的にとらえることを目指している。考察の幅広さと緻密さを兼ね備えた、日本哲学界期待の若手研究者。

【立花 幸司准教授】 「よい人生とは何か」という問題関心から倫理学を専門とする。とりわけ、人としての素晴らしさを表す「徳」という考え方を打ち立てたアリストテレスの倫理学、その考え方を現代に復権させた徳倫理学の立場から、倫理学上の諸問題を検討している。

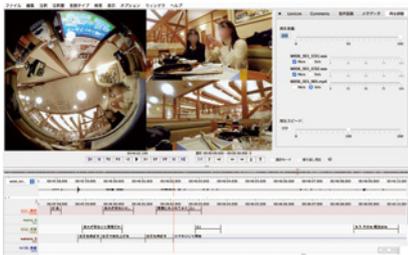
認知情報科学専修

認知課題に取り組むハト▶



認知情報科学専修は、人間の認知過程全般を多様なアプローチで探求しています。人間は外界を記号で表象し高度に操る情報処理的存在であると同時に、他者と交わり、価値や目的を共有する集団を構成する社会的存在でもあります。人間行動が興味深いのは、人間がこうした二面性を持っているからでしょう。本専修では、生物学・行動学から心理学・言語学・情報学・統計学・論理学・経済学・芸術等に至る広範囲なスペクトルで人間行動にアプローチしています。

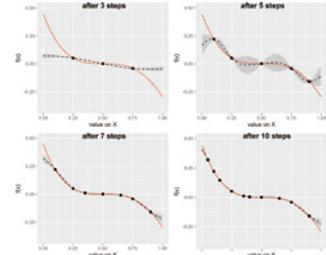
実際、認知情報科学専修ではいろいろな情景がみられます。ある研究室ではビデオに収録された人間の会話を一言ひとことチェックしている人がいますし、他の研究室ではハトがモニタに映し出された画像の分類訓練を受けています。コンピュータで人間の行動や社会現象をシミュレートしている研究室もあれば、人間の知的・感性的行動を分析しコンピュータの中に人格を作ろうと目論んでいる研究室もあります。このような多様性が共存し、互いに刺激を与えあえることがこの専修の最大の魅力です。このような研究を通じて、人間の認知過程の解明にとどまらず、人間の意図や感情を理解するシステムなど、コンピュータそのものを進歩させていくこともできるのです。私たちは、自らがこの専修の特徴を作っていけるような、意気込みに満ちた学生を受け入れています。卒業生は、人間への強い関心と、先進情報機器を使いこなす能力を兼ね備えた貴重な人材として、現代のIT社会で国際的に活躍するだけでなく、さらにその興味を発展させて大学院に進学して研究を続けるなど、学術的にも貢献しています。



▲ELANIによる会話データのアニメーション



▲行動実験に取り組む学生



▲能動的関数学習に関する実験結果の解析

【阿部 明典教授】 アブダクション等の知的推論の研究をしています。更に、稀や新規な事象で将来にリスクや利益となるものを発見するチャンス発見の研究、ことばの感性的側面（詩の創作、キャッチコピーなど）に注目したことば工学を研究しています。本研究は、人工知能を中心とし、機械推論は勿論、芸術、経済など様々な方面を指向したものです。

【伝 康晴教授】 人間の対面コミュニケーションについて、文法や韻律に加え、身振りや視線など非言語行動も含めた多様な側面から研究しています。ビデオ収録された会話資料をもとに、統計的モデリングと事例分析を併用して実証的に研究を進めています。言語学・心理学・情報学にまたがる複合領域です。

【松香 敏彦教授】 記述的認知モデル・人工知能の開発。特に、人間の hoch 認知情報処理過程を、行動実験を用いて研究し、そのデータと計算モデルを用いたシミュレーションによって、認知処理についての学説・仮説の検証をおこなっています。理想は、「人並みの過ちをおかず」人工知能/アルゴリズムをつくることです。

【牛谷智一准教授】 ヒトの認知機能がどのような適応のために進化してきたのか理解するため、認知機能の動物種間比較を通じ、その多様性を調べています。特に、動物がどのように世界を見ているか、空間をどのように認識しているかに焦点を当てています。

【渡辺安里依准教授】 専門は比較認知科学で、ヒトとヒト以外の動物の思考や記憶にはどのような相違点、そして類似点があるか、行動実験を通して研究しています。特にメタ認知やエピソード記憶などの高次認知に重点を置いて調べています。

ホームページ：<https://cogsci.l.chiba-u.jp>

心理学は、人間の心の働きについて研究する分野です。具体的には、外界の知覚・認知過程から、記憶や思考のような高次の認知的機能、パーソナリティ（性格）や表情認知・視線検出などの個人差、社会的行動などの多様な問題について、そのメカニズムを研究する領域です。日本には心理学を専攻できる大学が数多くありますが、当専修では特に実証科学的な心理学を重視しています。自ら実験や調査等を行って新しい知見を見出すことができる人の養成を目指しています。

カリキュラムでは、心理学関連の多様な分野についての講義とともに、実験や実習、演習が重視されています。2年次の初級実験にはじまり、3年次の中級実験では各自が選んだテーマについて実験や調査を行い、その結果を報告書にまとめます。4年次にはさらに実験などを重ね、その成果を卒業論文にまとめます。当専修では、これらの研究を行なうための各種実験室とともに、実験機器、測定機器など、充実した研究環境が整えられています。



▲左右眼に異なる画像を提示する視覚実験



当専修は千葉大学が創設された頃から続く心理学講座の伝統を引き継いでいます。卒業生は社会の各方面で活躍しています。大学や公共機関、企業の研究所などで心理学関連の仕事に従事する卒業生、心理学の専門知識が必要とされる家庭裁判所や少年院、児童相談所などで国家・地方公務員として働く卒業生が数多くいます。航空会社、テレビ局、情報関連企業など幅広い職場でも多くの卒業生が活躍しています。学部卒業後、さらに研究を進めるため、千葉大学大学院の人文公共学府（博士前期課程）や情報・データサイエンス学府（博士後期課程）、他大学の大学院などに進学する卒業生もいます。

なお、当専修では、臨床心理学の実践のための機会や環境がないため、概論的な講義科目を除いて臨床心理学に関わる教育・研究を行っていません。公認心理師資格取得にも認定心理士資格取得にも対応していません。ただし、当専修で重視している実証科学的な心理学を学んだ上で、臨床心理士の受験資格を得るための指定大学院・専門職大学院に進学することは可能です。事実、臨床の領域で活躍している卒業生も多くいます。

【木村 英司教授】 人間の視知覚（どのようにものを見ているか）、中でも両眼情報の統合過程、明るさや色を見る仕組みなどを研究しています。人間が様々な刺激に対して行う意識的な反応と、刺激によって眼の瞳孔に生じる不随意的な反応を測定するという手法を用いて、視覚処理メカニズムの解明を目指しています。

【一川 誠教授】 実験心理学的手法を用いて人間の知覚認知過程や感性の特性について研究しています。特に、体験される時間や空間の特徴、視覚や聴覚間の相互作用、注意や意識と印象形成過程との相互作用などについて調べています。実際に操作できる程度まで人間の心的特性を理解することを目指しています。

【礒部智加衣准教授】 社会心理学、中でも集団内-外の関係を専門としています。特に、どのような時に、仲間もしくは他の集団（の人）を受け入れるかどうかを検討しています。人は、どのような状況でどのように自分自身を捉えるのか、またそれが集団における行動にどのような影響を及ぼすのかといった視点からアプローチしています。

【大隅尚広准教授】 個人差に関する心理学や認知神経科学を専門としており、精神病理や逸脱行動に関連する認知や感情の研究を行っています。特に、道徳的社会化の問題を呈する人のパーソナリティ特性（自己中心性、共感性の低下、衝動的行動など）の生物学的基盤や社会的背景の解明を検討しています。

【柳 淳二助教】 人間の視覚、特にものの動きや奥行きを見ることについて実験的に調べています。たとえば、動いているものの速さや向きなどがどのように見えているのかを詳しく調べてみると、実際の動き方と違っていることがあります。この見えのずれ方の特徴や法則性を手がかりにして、人間の視覚システムの働きやメカニズムを探ります。



人はひとりでは生きていけず、他人とかわかり、さまざまな集団や組織をつくって生活しています。友人、親子、恋人などの私的な領域から、学校や職場、近隣関係、NPO活動や社会運動などの公的な領域にいたるまで、人はこうした関係や活動にさまざまな意味を見出し、それゆえにさまざまな問題を生みだしています。社会学はこれらの意味や問題を実証的かつ理論的に明らかにしていく学問です。つまり社会学とは、私たちが社会の中で営んでいるさまざまな活動や人間関係、それらによって成り立つ全体社会の構造とその変動を研究の主題としつつ、同時に、それとの関連で個人のアイデンティティや文化の内容も研究対象にする学問なのです。

本専修のカリキュラムの特徴は、理論や文献の学習とともに、多様な調査方法にもとづく実証的な研究スタイルを重視していることです。2年次には、演習形式で社会学の理論について広く学びつつ、社会調査の基本的な考え方や多様な手法を学びます。3年次には、社会の現実と直接ふれるため、教員と学生全員で現地調査などを行う「社会調査実習」という科目が設けられています。毎年、研究テーマを定めてインタビューや調査票を用いた調査を行い、その研究成果を一冊の報告書にまとめています。近年の報告書のタイトルは、『暮らしと政治についての意識調査』『食と農のネットワーク』『個人化・流動化する現代社会in千葉』『なりたのわ』『「コロナ禍」をめぐるケアの場、そして「コロナ禍」をめぐる私からはじまるケア』『千葉で生活すること』です。地域や社会のたくさんの方々の協力を得ながら1年間をかけて行われる調査実習は、教室で学んだ社会学の知を介した現実社会との対話、集団作業を通じた総合的な力を養うトレーニングの場として貴重な機会となっています。

学生諸君が、社会学を通して人間の社会生活に対する関心を深め、その解明に自主的・積極的に取り組むことを期待しています。

【米村 千代教授】 家族社会学、歴史社会学を専攻。授業ではジェンダー論も担当しています。特に、近現代日本の家族変動が主要な研究テーマです。誰にとっても身近な存在でありうる家族というテーマを、ミクロな関係性やコミュニケーションの視点から見ることと、少し広い社会的文脈や社会変動のなかでとらえること、その両方からアプローチする授業や研究をしています。

【清水 洋行教授】 地域社会学・都市社会学を専攻。当分野ではグローバリゼーションや国・自治体の政策から人々のネットワークや意識・規範まで、マクロ・メゾ・ミクロの様々な動きから多面的に地域社会や都市の成り立ち（構造）と変化を考察します。その中で私は、コミュニティづくりや地域課題をめぐって活動している地域組織やNPO等を主な対象として、インタビュー・アンケート調査・参加観察などによる実証的研究を行っています。

【出口 泰靖教授】 医療社会学や福祉社会学、臨床社会学、ケアの社会学を専攻。特に、認知症ケア、高齢者介護や障がい児者介助、子育てなどの「ケアや支援」に関する領域を「ケアされーケアする」人たちの関係性に焦点をあてて研究しています。

【吉岡洋介准教授】 学校を卒業し就職してからの職業キャリアについて研究しています。人々のあいだで職業キャリアが「どのように」異なるのか、そして「なぜ」異なるのかを、パネルデータや回顧型職歴データというやや複雑な統計データの計量分析を使って明らかにしています。とくに「制度の違い」「機会の違い」「パーソナリティの違い」に注目して、上記の問いに対する答えを探しています。

【高艸 賢助教】 現象学的社会学と呼ばれる領域を中心に、理論的な研究をしています。また、日本のアニメファンを中心に、文化社会学の研究も行っていきます。人と人が関わり合って文化を生み出していく過程に関心を持っており、その過程を精緻に記述・分析できるところに社会学の魅力を感じています。

社会学専修では、「社会調査士」の資格を取得できる授業科目を用意しています。資格取得に必要な科目のほとんどは、「社会調査概説」「生活史の社会学」「社会調査実習」など社会学専修の専門科目に位置づけられているため、無理なく資格を取得することができます。

文化人類学専修

文化人類学は、人間は多様な存在であるという理解を前提として、その多様性を文化・社会の面から記述、考察していく学問分野です。世界に目を向ければ、言語、宗教、生業、国家などにもとづく多様なアイデンティティ、エスニシティを見ることが

できますし、日本国内においても、人々はジェンダー、世代、職業、出自などの違いによって多様な日常を生きています。グローバル化が進む現在、そのような多様な人々が出会う機会が増大していることから、「異文化」「自文化」の異同を理解し、多様性に向き合う姿勢を批判的に考察し、あるいは多様性が生み出す可能性について展望する学問の重要性がますます高まっています。

文化人類学専修では、そのような社会的要請のもと、文化人類学の理論、方法論の習得を通じて、グローバルな感覚をもつ人材育成を目指しています。文化・社会を相対的に解釈していく感覚を養いつつ、世界各地あるいは日本国内の都市や農山漁村に住まう人々の動態に関して重層的、多面的知識を身につけ、現地調査（フィールドワーク）の方法や調査・研究に必要な外国語を学ぶことで、その目的を達成していきます。そして、将来の進路として、文化人類学の研究者はもとより、国際協力・開発援助などの分野における専門家、あるいは一般的な就職先においても多様性への理解を実践的に活用できる社会人を目指してもらうことを期待しています。

授業科目は4本柱、すなわち(1)文化人類学諸理論の学習、(2)民族誌・地域文化の理解、(3)実践的外国語能力の習得（英語）、(4)フィールドワーク実習から構成されます。学生はこれらの授業を基礎にして、各自のフィールドワークや文献資料によって卒業論文を作成します。また、文化人類学専修は外国人留学生を積極的に受け入れ、研究室において異文化間コミュニケーション実践の場を日常的に作り出す努力をしています。



▲宮古島市にて遊漁船に乗船中



▲鹿児島市にて魚の価格を調査中



▲小笠原諸島で農業従事者へインタビュー



▲出雲市にてシジミ漁についてインタビュー中

さらに学部学生や大学院生の海外研修、留学、現地調査もおおいに奨励、支援しています。卒業生は、大学院進学、公務員や民間企業就職などの一般的なコースのほか、政府、自治体や国際機関等において、国際協力の分野で活躍する進路を選択している人もいます。

【小谷 真吾教授】 専門は生態人類学、環境人類学です。自然環境は地域ごとに多様であり、また人間の活動によって新たな環境が日々生成されていきます。そのような多様な環境に住まう人々の生態（いきざま）を、主にパプアニューギニアとマレーシアをフィールドとして、エコロジー（生態学あるいは環境思想）の視点から研究しています。

【高橋絵里香教授】 専門は医療人類学、福祉人類学、老年人類学です。エイジング（年を取ること）という経験と、それを支えるケアの実践は、政策や社会制度の歴史、家族のかたち、人びとの信仰と価値観などの様々な要因と絡み合いながら形作られています。そこで、北欧のフィンランドをフィールドに、独居高齢者の自立生活、家族介護者に対する支援制度、北欧型福祉国家の新自由主義化について調査し、現代社会で生きること、老いることについて考察しています。

カリキュラムには、概説、民族誌、研究法、調査実習に加え、生態・医療・開発・宗教・政治・経済・ジェンダー・映像・芸能について人類学各論、地域文化論、文化変容論などの科目があります。地域は、東南アジア、オセアニア、ヨーロッパを中心に、世界各地の文化と社会について学べるように構成しています。

■ 先進科学プログラム 人間探求先進クラス

京都のグループハウスでメモをとる学生▶

行動科学コースには、先進科学プログラム 人間探求先進クラスの学生も所属しています。千葉大学先進科学プログラムとは、いわゆる飛び入学の制度であり、優れた能力を持つ学生に早い段階で大学教育の機会を提供し、科学的研究を通じて世界に貢献する人材を養成することを目的としています。このうち、人間探求先進クラスは、自然科学や人間科学に関して優れた資質をもち、人間についての科学的研究に意欲を持つ学生を受け入れ、養成することを目指しています。



人間探求先進クラスでは、21世紀の中心的課題となる、人間の心や社会、文化に関する科学を学びます。従来このような課題は、文系の守備範囲でした。しかし近年、人間の心理や社会現象の研究において、自然科学的な手法を用いた解析やモデル化の適用が一般的となり、新しい視点と方法による科学が成立しつづあります。例えば、自分とはどのような存在なのかという哲学的な問題を認知科学的に理解したい、物を見て解釈するしくみについて眼や脳のはたらきと関係づけて理解したい、文化が変容しながら伝わっていく様子を研究したい、人間の行動と動物の行動を比較してみたい、等の課題は、この新しい科学の対象として研究が進んでいるところです。人間探求先進クラスでは、このような人間に関連する科学的研究分野において、自然科学に関する十分な理解を有し、柔軟な発想を駆使して独創的な研究を展開できる人材を養成したいと考えています。このため、従来の文系・理系という区分を物足りなく感じている意欲的な学生諸君を歓迎します。

人間探求先進クラスのカリキュラムには、文学部行動科学コースの学生向けのさまざまな科目に加えて、1年次から独自の少人数セミナーが多く含まれており、最新の人間科学を研究するために必要となる基盤を養います。このほか、各学年で履修するセミナーを通じて人間についての科学的研究に必要な基礎を体系的に学び、自らの研究へと発展させ、4年次には研究の成果を卒業論文としてまとめます。人間探求先進クラスの学生には担任教員がつき、学習面および生活面の指導をします。

先進科学プログラムの出願受付および入学者選抜は、先進科学センターが統一して行います。詳細については、先進科学プログラムの学生募集要項や先進科学センターのホームページ (<https://www.cfs.chiba-u.jp>) などを参照してください。



行動科学コースの風景



▲哲学専修 授業風景



▲哲学専修 授業風景



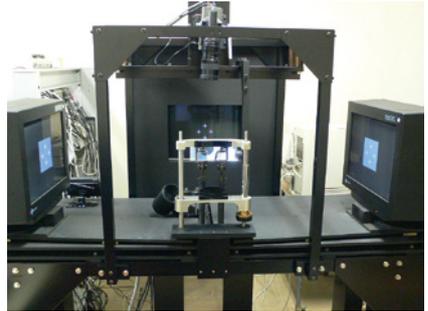
▲哲学専修 資料室



▲心理学専修 初級実験風景



▲心理学専修 認知心理学実験風景



▲心理学専修 両眼視のための実験装置



▲社会学専修 現地調査に向けて教室で資料の検討



▲社会学専修 調査実習協力団体の活動に参加



▲社会学専修 調査のまとめに向けて合宿で討論



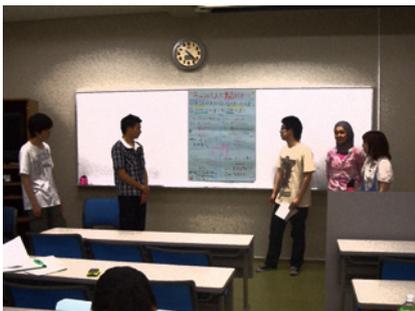
▲文化人類学専修 授業風景



▲文化人類学専修 調査実習沖縄池間島釣り体験



▲文化人類学専修 調査実習淡路市地域での懇親



▲認知情報科学専修 授業風景(1)



▲認知情報科学専修 授業風景(2)



▲人文科学入門 発表会

歴史学コース



2025年4月
歴史学コース1年生研修
国立歴史民俗博物館（千葉県・佐倉市）

**現実を直視し
過去を見つめ、
未来を展望しよう**

—過去から未来へ—

歴史学コース

世界中の大学において、Department of History（歴史学部／歴史学科）がおかれています。

さまざまな学問の誕生と同時に、歴史学も生まれました。歴史学は「諸学の母」とも呼ばれるように、いろいろな学問に深くかかわるところから、世界中の大学にDepartment of Historyがおかれています。そして千葉大学文学部においても世界の大学と同じく、歴史学を体系的、かつ多面的に学ぶことができる教育課程を持つ歴史学コースを設けています。

千葉大学文学部の歴史学コースでは、文献史料としての「文字」を対象とするだけでなく、考古資料などの「モノ」、図像・音声・映像資料などの「イメージ」といった多彩な史資料を活用し、多面的な研究を行っています。わたしたちは、これら3つの研究方法を柔軟に駆使しつつ、それらを融合した新しい〈歴史学〉の構築をめざしています。したがってカリキュラムも、日本史・東洋史・西洋史・考古学・美術史といった特定分野別の編成というかたちをとっていません。

みなさんは、特定の地域・時代・領域に偏ることなく、自己の関心に応じてさまざまなテーマの歴史を、多様な方法を媒介として学ぶことができます。いわゆる日本史も東洋史も西洋史も考古学も美術史も、蓄積され洗練されたあらゆる方法をふまえて、人類の歴史という世界史的な視点から把握しようというのが、歴史学コースの教育内容です。

みなさんの4年間の総仕上げは卒業論文です。そこでは、自己の問題関心に従ってテーマを定め、それまで学んだ方法、収集した史資料を利用しながら、多角的・徹底的にその課題を掘り下げて探求することが求められます。みなさんが納得のいく卒業論文を完成させることができるよう、私たちは援助を惜しみません。

私たちといっしょに、ぜひ歴史学を学ぼうではありませんか。



▲卒業論文準備報告会 2025年5月22日



▲夏季発掘調査実習（2024年8月）



◀国立歴史民俗博物館にて研修の折、博物館の工藤航平准教授に江戸図屏風の解説を受ける歴史学コースの学生



▶学外研修の折に、佐倉市内の武家屋敷群を見学する歴史学コースの学生たち

歴史学コース 教員の授業



▲阿部昭典

講義では、考古学の方法論や先史時代の文化や社会について、映像や遺物などを用いて学びます。



▲磯貝真澄

ロシアのウラル南麓にあるムスリムの墓地で、アラビア文字で書かれた墓碑銘を調べた時の様子です。図書館や文書館に收藏されていない歴史資料の保存も重要な課題です。

▼伊東久智

日本近現代史関連の講義や、文献・史料講読演習などを担当しています。写真は過去に台湾で行った史料調査の様子。



【阿部 昭典】 考古学のなかでも、先史時代の縄文文化研究を専門にしています。縄文時代は、狩猟採集漁労などを生業とする社会で、約一万年間にわたって日本列島に展開しました。文字がない時代に残された多種多様な遺物、遺構等の調査・研究から、過去の文化や社会を研究しています。[主な担当科目：先史考古学、先史考古学演習、考古学実習]

【磯貝 真澄】 中央ユーラシアとロシアの近現代史、とりわけロシアのヴォルガ中・下流域、ウラル南麓のムスリム社会の歴史を研究しています。正教を国教とする、しかし多宗教・多宗派のロシアで、イスラームの規範に基づく家族・社会生活がどのように営まれていたのかを解明しようとしています。そうした社会とオスマン帝国や中央アジアとの関係も考察します。[主な担当科目：イスラーム地域史、イスラーム地域史演習、社会文化史、社会文化史演習]

【伊東 久智】 専門は日本近代史で、特に、日露戦後から昭和戦前期にかけての若者（青年）を担い手とした政治・社会運動史の研究に取り組んでいます。また、政治・社会運動史研究へのジェンダー史の観点の導入という問題意識から、男性史研究にも取り組んでいます。[主な担当科目：日本史基礎、日本史、文化資料論基礎、近代記録史料演習]



▲岩城高広

東南アジアの歴史をおもなテーマとして、講義や文献を読む演習を行なっています。



▲大峰真理

写真は講義の様子です。地図、図版、統計を使いながら行ないます。演習では、フランス語の文献を読みます。



◀川合真木子

ヨーロッパ美術史の講義・演習などを担当しています。写真は、ナポリ近郊の円形闘技場で行った現地調査時のものです。絵に描かれたものや場所を実際に見て確かめることも大切な調査の一環です。

【岩城 高広】 東南アジアの歴史、なかでもビルマ（ミャンマー）の歴史を、王朝期の中央政府と地方社会との関係、英国の植民統治体制にたいするビルマの人びとの対応、などのテーマから考えています。授業では、東南アジア史全体に目を向けて、講義や文献を読む演習をおこなっています。[主な担当科目：アジア史基礎、東南アジア地域史、東南アジア社会論演習]

【大峰 真理】 近世フランスを中心とする北西ヨーロッパの歴史を勉強しています。とくに、港町の商業活動と交易ネットワークに関心があります。モノとカネの取引を通してなされる人と情報の交流や交換の様子を、実証的に考察しています。[主な担当科目：史料学基礎演習、環大西洋移動交流史]

【川合真木子】 専門はイタリア美術史です。特に17世紀のナポリ絵画の発展や、女性画家の活動に興味をもって研究をしています。最近では芸術家の社会的地位の問題やジェンダーの観点を取り入れながら、自画像について考察しています。[主な担当科目：図像解釈学、ヨーロッパ美術史演習、文化資料論基礎]



▶ 栗田 禎子

中東・北アフリカ近現代史が専門です。写真は1年生向け導入ゼミ「人文科学入門」の授業の様子。学生による報告と討論が中心です。



▲ 酒嶋 恭平

写真は2～4年生向けの演習の様子です。古代ギリシア・ローマ史に関する研究文献の輪読を行います。



◀ 檜皮 瑞樹

江戸の風俗や下層社会をテーマにした古文書実習のフィールドワークの風景です（浅草・鳥越神社にて）。

【栗田 禎子】 中東、特にアラブ地域の近現代史が専門です。ヨーロッパの侵略・植民地支配に対する19世紀後半の抵抗運動であるエジプトのオラービー革命、スーダンのマフディー運動などを研究していますが、講義ではパレスチナ問題や、現代中東の政治過程、中東のマルクス主義の問題なども扱います。[主な担当科目：アジア・アフリカ植民地史論、中東・アフリカ地域史]

【酒嶋 恭平】 専門は古代ギリシア史で、ヘレニズム期以降のポリス文化や、ポリスとヘレニズム諸王・ローマ皇帝との関係について興味を持っています。古代ギリシア・ローマ人の異民族観や文明観についても関心があります。文献史料だけでなく、金石文などの考古資料も取り入れながら研究しています。[主な担当科目：ヨーロッパ古代社会論、社会文化史演習、史料学基礎演習]

【檜皮 瑞樹】 日本近世社会の周縁—蝦夷地・アイヌ民族や琉球王国—が、19世紀以降に日本列島の社会とどのように関わりを持ったのか、そのような接触の過程で生じた暴力をテーマに研究を進めています。また、19世紀を中心にした民衆世界や民衆思想、あるいは日本列島の北方地域における人々の移動や定住というテーマにも関心があります。[主な担当科目：日本史基礎、古文書実習、記録史料演習、史料学基礎演習]



◀ **山田俊輔**

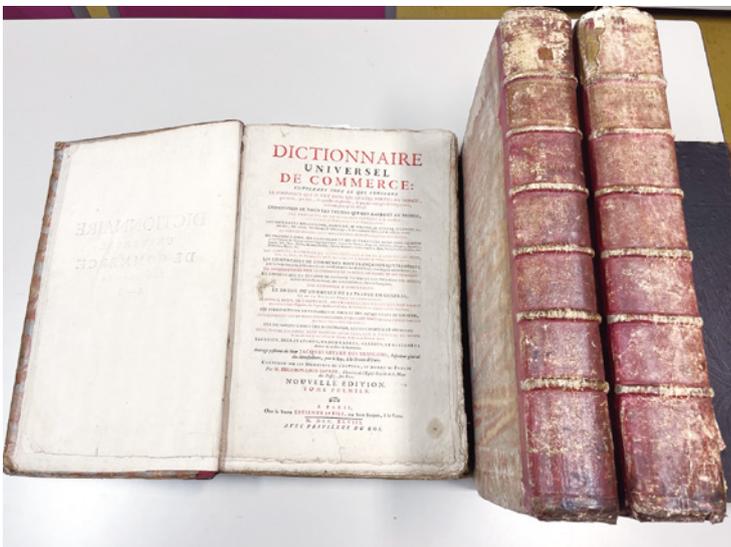
考古学の授業では、発掘調査や遺物整理など生の資料に触れて、体で歴史を感じることができます。

【山田 俊輔】 日本古代の国家形成期である古墳時代について研究しています。古墳時代は地域社会の統合が急速に進む時期ですが、そのメカニズムを明らかにすべく、様々な考古資料の分析を通じて研究を進めています。[主な担当科目：歴史考古学、考古学演習、考古学実習]

歴史学コースの授業科目については、文学部シラバスをご覧ください。



▶ 古文書学習で歴史資料の扱い方を学ぶ歴史学コースの学生。



◀ **J. Savary, *Dictionnaire universel de Commerce*, 3vols., Paris, 1748.**

編者のSavaryは17世紀後半のパリの関税監査官だった。『商業事典』と訳される本書は、彼が日々の業務を遂行するために作成した通関商品一覧がもとになっている。初版は1723年に出版され、その後改訂版が繰り返し発行された。千葉大学に所蔵されているものは1748年版である。当時どのような商品が流通していたのかを教えてくれる第一級の歴史資料である。

日本・ユー ラシア文化 コース



1年生の見学ツアー
東京国立博物館（東京都台東区）

- 日本語・日本文学専修
- ユーラシア言語・文化専修

日本・ユーラシア文化の多様性を学ぶ

日本・ユー ラシア文化 コース

日本・ユーラシア文化コースは、日本およびその周辺のユーラシア諸地域の言語・文学・思想・民俗・芸能などの諸文化を多面的な視野から見つめ考えていくコースです。

日本・ユーラシア文化コースは、次のような学問・教育の分野を担っています。日本語学、日本文学・文化、ユーラシア言語・文化等の各分野です。日本語学は、日本語の成立・歴史・構造・地域言語等の特性をはじめ、日本語と教育、文化、社会との関係等、日本語をさまざまな側面から学んでいきます。日本文学・文化は、古代前期・古代後期・中世・近世・近代の各時代を通じた文学・文化を考え、同時に伝承文学・芸能文化といった基層の文学・文化を重視して展開されます。さらに、韻文・散文・劇といった文学の形態や思想等にも配慮し、総合的な日本文化の考察を目指しています。ユーラシア言語・文化は、日本国内のアイヌ民族などを含め、シベリア、モンゴル、中国といった日本に近接するユーラシア諸地域の少数民族や先住民族を中心とする諸民族の言語・民族文化・口承文芸（神話・民話・伝説）等について言語学と文化人類学の立場から考察します。言語学では、言語を調査・記述する方法や、言語構造を分析する方法を学びます。文化人類学では、民族とその文化を研究するにあたり必要な諸概念と方法について学び、現地調査による対象の研究を目指します。これらの学問分野は、それぞれが独立して存在するものではなく、学生諸君の多様な関心に応え得るように教育が行われています。

なお、本コースは、日本語・日本文学専修、ユーラシア言語・文化専修の2つの専修から成っていますが、実際の授業カリキュラムにおいては、この区分とはかかわりなく、学生は全く自由に自らの履修プランを組み立てられるようになっています。

学生の卒業後の進路は、コンピューター、情報、メーカーをはじめ、出版、マスコミ、商社、金融、サービス、不動産などの民間諸企業、(国家・地方)公務員、中学・高校教員(国語)、大学院進学など多様です。



▲人文科学入門：1年生を対象にした導入授業
自分で調べ、考えるための基礎的な知識や技法を学びます。またキャリア形成の基礎として、自己理解を深めていきます。



▲新入生歓迎行事：新入生が在学学生および教員と親睦を図ります。



◀人文科学入門：神保町古書店めぐり
百万塔陀羅尼



▶普通教育 教養展開科目「伝統文化をつくる」授業
で行っている公演：コースの教員が担当しています。



◀国際交流論：米国シンシナティ大学からの
短期留学生との交流プログラム



▲古代文学論演習：出雲大社でゼミ合宿（兼岡先生）



▲人文学国際インターンシップ（共通基礎科目）（久保先生）



▲近代文学論（小林先生）

【兼岡 理恵】 古代文学の表現を読みとき、古代の人々は何を思い、どのような世界観を持っていたのか、「古代」とは何か——を探ることを目指しています。また古代文学が成立以降「なぜ」「どのように」受容されてきたのか、その諸相を検討し、現代の私たちが古代文学を「よめる」「よむ」意味を考えていきます。

【久保 勇】 『平家物語』をはじめとする軍記物語の研究を通じ、「武」や「戦争」に関わる文化的営みが、作品成立当時から現代に至るまで、どのようになされてきたのか考えています。また、合戦の場や物語の舞台となった「地域」について、その歴史・伝承・遺物などを対象に調査する活動などもおこなっています。

【小林 洋介】 日本近現代文学を担当しています。横光利一、川端康成など戦間期の小説を研究の主対象としつつ、歌詞を文学テキストとして扱うことも試みています。文学研究を通して、人間が言語を用いて物語を語るとはいかなる営為なのか、という根源的な問いに取り組んでいます。授業では明治から現代までの幅広い作品を扱います。



▲中世文学論演習：演習風景（柴先生）



▲現代日本語演習（鈴木先生）



▲近世文学論演習：国立劇場で古典演劇鑑賞（田草川先生）



▲資料・情報組織演習（司書資格科目）（竹内先生）

【柴 佳世乃】 宗教と文芸が分かちがたく結びついていた中世の文学世界を解明することを目指しています。作品にあらわれる表現や事象の検討に加え、歴史学・宗教学・音楽学などの周辺領域への目配りによって、そのテキストを広く中世の文化の中に読み解いていきたいと思っています。

【鈴木 彩香】 日本語がどのような規則で成り立っているのかを、音声、文法、コミュニケーションなど様々な側面から考えていきます。私たちにとって身近な存在であるはずの日本語が謎に満ちていること、ただしきちんと向き合えば筋の通った体系を持っているということの面白さを、皆さんにも考えてもらいたいと思っています。

【田草川みずき】 近世文学、および日本古典演劇が専門です。特に、近松門左衛門の活動期前後の浄瑠璃作品と周辺芸能、これに付随して生じた芸論・譜本等々の演劇書を研究対象としています。また近年は、近世期の稽古事文化についての調査を行い、「稽古事」としての芸能の社会的な位置付けや、そのシステムの解明を目指しています。

【竹内比呂也】 図書館は、人類の知的、文化的な活動の結果生み出される様々な情報を蓄積し、サービスする機関として、ますます重要になってきています。情報通信技術の進歩に対応し、社会において図書館がどのように機能すべきか、制度や政策も含めて研究しています。

ユーラシア言語・文化専修

【児玉香菜子】 異なる自然及び社会環境においてはぐくまれてきたユーラシアの社会と文化について学んでいきます。講義と演習を通じて、問題を発見し、それを文献やフィールドワークなどによって調査・分析し、その結果を論文としてまとめるという論理的思考と実践の一連の作業を身につけることを目指しています。

【阪口 諒】 専門は言語学（アイヌ語）・アイヌ口承文学です。講義と演習では、アイヌ語だけでなく、言語学やアイヌの社会や文化に関係する様々な話題も同時に学んでいきます。日本の先住民族の言語であるアイヌ語を学ぶことは、日本社会の多民族性・多言語性について理解を深めることにつながるはずです。

【田口 善久】 言語を研究するために必要不可欠な音声学、音韻論、歴史言語学の方法を演習を通して実践的に学びます。それによって世界の諸言語が日本語とどのように違いたどのくらい似ているかを学んでいきます。また、東アジアの諸言語の文法的特徴、歴史変化などについて講義をしています。



◀ フィールド調査法演習：千葉県銚子市外川町にてフィールド調査（児玉先生）



▲ 言語体系論演習：ことばの形式と機能について分析します（田口先生）



◀ アイヌ語学演習：アイヌ語テキストを検討します（阪口先生）



▲ユーラシア合同ゼミの様子：大学院生も参加し、卒業論文の完成に向けて議論します



▲銚子市の外川ミニ郷土資料館にて聞き取り調査



▲千葉科学大との合同調査報告会

●教員・授業科目紹介

教員名	専門分野	主な授業科目
教授 兼 岡 理 恵	古代文学、説話文学	人文科学入門、日本・ユーラシア文化論基礎、日本文学基礎講読、日本語学基礎、言語学基礎、ユーラシア人類学基礎、日本文学史、古代文化論、中世文化論、近世文化論、現代文学論、日本語史、日本文法論、古代日本語論、現代日本語論、言語体系論、言語機能論、ユーラシア言語類型論、アイヌ語、アイヌ文化論、東北アジア文化論、内陸アジア文化論、ユーラシア文化論、ユーラシア口承文芸論 など
准教授 久 保 勇	中世文学、軍記物語	
准教授 小 林 洋 介	近現代文学、戦間期モダニズム、歌詞	
教授 柴 佳世乃	中世文学、説話・仏教文学	
准教授 鈴 木 彩 香	日本語学、統語論、意味論	
准教授 田草川 みずき	近世文学、演劇学	
教授 竹 内 比呂也	図書館情報学、学術コミュニケーション	
教授 児 玉 香菜子	文化人類学、モンゴル文化論	
助教 阪 口 諒	言語学、アイヌ語、アイヌ口承文学	
教授 田 口 善 久	言語学、歴史言語学、言語接触論	

国際言語学 文化コ



- 言語構造専修
- 英語圏文化専修
- ヨーロッパ文化専修
- 超域文化専修

世界に向かって開かれた広場
—ことばと文化の饗宴—

国際言語文化学コース（旧学科）は、千葉大学で最初に「国際」の名を冠した教育単位です。主に欧米の言語、文学、文化を対象とし、その多様性・流動性・国際関連性、さらには内部構造についての多角的・多元的な研究・教育が行われます。言語構造、英語圏文化、ヨーロッパ文化、超域文化という4つの専門分野の中から自由に選択できるようになっています。英語だけではなく、もうひとつの自分の言語を身につけることができるとともに、古典古代から現代まで、欧米系の言語文化を深く専門的に学ぶことができるコースです。

本コースでは、学生はその関心に応じて、2年次から、言語構造専修、英語圏文化専修、ヨーロッパ文化専修、超域文化専修のいずれかに属して履修します。また本コースでは、2つ以上の近代西洋語を中心とする外国語の高度な運用能力を習得することが求められ、外国語を徹底的に学ぶための様々な授業が準備されています。現在専門科目として本コースが開講している外国語は、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語です。

高校で英語を勉強して、言葉の背後にある英米文化や英語の仕組みについてさらに学びたいと思った場合に、そのようなことを専門的に学べるのは、千葉大学では文学部国際言語文化学コースのみです。また、英語のみならず、他のヨーロッパ言語や文化について勉強したり、日本文化との比較や日本における外国文化の受容などについて研究できるのも、本コースならではの特徴といえます。本コースでは言語と言語文化をめぐる充実した研究・教育が行われており、本を読むのが好きな学生にとっては、読書の世界が広く深く開かれる場となることでしょう。

本コースの教員は言語学、文学、文化研究の学問分野における専門家であり、国際的にも水準の高い大学で学位を取得しています。学術的な評価の高い論文・著書を発表しており、日本語のみならず外国語での実績もあります。留学の経験も豊富で、世界を舞台に活躍する研究者も多くいます。本コースにおける教育にも、その専門性と国際性が反映されています。多くの授業が少人数制で運営されており、学生ひとりひとりの学習状況を教員が把握しアドバイスすることができます。また、本コースでは、卒業論文の執筆に先立って、3年次論文の執筆が義務付けられているところも特徴です。自らの知的関心に基づいたテーマについて、きめ細やかな指導を受けながら存分に研究を進めることができます。

本コースでは、研究の遂行および国際社会での活躍のために必要な専門知識と語学力を身につけることを重視しています。ネイティブスピーカーの先生による授業も開講されています。

本コースで培った語学力を生かして多くの学生が充実した留学生活を経験しており、さらには国際的な仕事に就いて活躍している卒業生も多くいます。卒業後の進路は、大学院への進学（海外の大学も含む）、公務員、教育、一般企業など多方面におよび、個性的で優秀な人材を生んでいます。就職率が高く、留年率が低いことも特長です。

言語構造専修

言語コミュニケーション、語学研究、言語理論、意味論、歴史言語学などの研究を行います。語学に強い関心があって、専門的に勉強しようという人に適しています。主として英語・ドイツ語・スペイン語・フランス語を中心とした言語文化を学びます。言語を人間の創造した最高の文化と考え、その構造と運用のメカニズムをとらえようとしています。本分野で学ぶ人は英・独・西・仏の言語を国際的なコミュニケーションの手段として使えるようその運用能力を高めるとともに、言語そのものを研究の対象としてみる眼を養っていただきたいと思います。

英語学分野では、英語の音声、単語の仕組み、文の構造（文法）、文や語の意味、言外の意味などについての研究を行います。また、卒業論文を英文で30ページ以上書くことになっています。

歴史言語学分野では、英語やドイツ語、フランス語などをはじめとする現代のヨーロッパ言語だけではなく、ラテン語、ギリシア語、サンスクリット語などの古代の言語を視野におさめながら、古今東西のインド・ヨーロッパ諸言語を中心とした世界の様々な言語を比較し、各言語における歴史的变化について研究を行います。

ヨーロッパ文化専修

フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語などのヨーロッパの言語の学習を基礎として、英語圏以外の多様で特色あるヨーロッパ文化、文学をさまざまな視点から学び、研究します。

フランス文学、ドイツ文学、スペイン文学、ロシア文学などの伝統的な各国文学のほかに、文化論、芸術論、現代思想、複数の国の文学、文化、芸術の比較など、最近の新しい研究領域を含めた広範囲の分野から自分のテーマを選択することができます。1, 2年次ではとくに、大学での勉強の基礎となる外国語の学習を重視しています。

英語のほかに、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語などのヨーロッパの言語を深く学ぶことで、外国語の面白さを知ることになるでしょう。また、専門となる外国語の学習と並行して、ヨーロッパの多様な地域の個性豊かな文化的伝統についても学ぶことができます。さらに、従来の各国別文学のほかに、比較文化論、文学理論、現代文化論などの新しい研究テーマにもチャレンジすることができます。

ヨーロッパの文学、文化、音楽、絵画、映画、演劇、あるいは最近の社会現象、環境問題やEUなどの今日的問題に強い関心をもっている人を求めています。もちろん、一度ぜひヨーロッパに行ってみたいと考えている人にもお勧めします。

英語圏文化専修

英語およびイギリスとアメリカを中心とした文学と文化を学びます。18世紀の詩から現代ファンタジー小説やサイエンス・フィクション作品までの幅広いイギリス文学、人種や地域性に特徴づけられた奥深いアメリカ文学、そして映画、音楽、政治文化など多岐にわたるアメリカの文化を学びます。英語を無国籍なコミュニケーション・ツールとして認識するのではなく、英語が生まれ使われてきた歴史的背景と文化的土壌とを研究するところに特徴があります。

英語圏文化を専門分野とする学生は、卒業論文を30ページ程度の英文で書くことが義務づけられています。（この準備として、3年生は10ページ程度の三年次論文を教員の指導のもと執筆します。）毎年この論文執筆のプロセスを通して多くの学生が入学時よりも飛躍的に英語力を高めて卒業してゆきます。教員と学生1対1での個別指導が行われ、綿密な研究指導と英文添削を受けることができるからです。

ネイティブスピーカーの先生による授業や、英語で発表やディスカッションをする授業もあり、卒論発表会は質疑応答を含めて、すべて英語で行われます。少人数のクラスを生かして、英語の発音指導やプレゼンテーションの方法についての指導も行われています。

超域文化専修

2021年度から新たに設置した専修で、諸種の文化的営為を超国家的な視点あるいは国際的な比較の観点から考察します。また、既存の学問領域を横断する学際的な研究も行います。比較文学、比較文化論、文学理論、多言語多文化接触論などの地域・言語圏を超える研究分野が含まれます。

超域の「域」は、地域と学問領域の二つの「域」を表しています。言語や文化は一つの国や地域にとどまるものではなく、それらの枠組みを超えて存在しています。複数言語の比較研究や、国境や地域を超えた文化の様相を明らかにする研究、異文化接触、異文化受容に関する研究、複数の言語圏の文学作品を横断的に比較分析する研究など、学生が設定することのできる研究テーマは多岐にわたります。また、多様化する学問の現在に鑑み、既存の学問的方法論を横断する研究テーマを設定することも可能です。

●教員・授業科目紹介

教員名	専門分野	主な授業科目
准教授 大森 雅子	ロシア文化論、表象文化論	人文科学入門、比較文化論基礎、多言語多文化接触論、演劇論、芸術メディア論演習、生成文法理論演習、英語史、英語音声学、英語学概説、英語圏文化論、英語学演習、イギリス文学史、イギリス文学演習、アメリカ文学史、アメリカ文学演習、アメリカ文化論、アメリカ文化論演習、アメリカ小説論、英語圏文学演習、フランス文学演習、ドイツ語学概説、ドイツ語学演習、ドイツ文学史、ドイツ文学演習、ドイツ語圏文化論、ドイツ文化論演習、現代ドイツ事情、スペイン語学概説、スペイン文学講読、スペイン文学演習、ロシア文学演習、ロシア文化論、ロシア文化論演習、スラヴ文化論演習、英語・フランス語・ドイツ語・スペイン語・ロシア語（文法・会話・作文・講読）、英会話応用、ラテン語、ラテン語演習
教授 鎌田 浩二	英語学、理論言語学	
助教 高田 梓	ドイツ語圏文学	
助教 高橋 知之	ロシア文学、比較文学	
教授 舘 美貴子	アメリカ文化論	
助教 野添 聡	ドイツ語学、歴史言語学	
准教授 橋本 知子	フランス文学	
教授 山本 裕子	アメリカ文学	
教授 アンドリュー・レイメント	イギリス文学、20世紀文学	
准教授 小川 佳章	スペイン文学／スペイン語学	

言語構造専修

【鎌田 浩二】 人間の言語の多様性（地球上に多数の言語が存在している現象）の問題に取り組みながら、「言語機能」と呼ばれる人間が生まれつき頭の中に持っている言語についての知識の解明を目指しています。また、言語がどのように変化していくのかという言語進化にも関心があります。

主な担当科目 「**英語学演習**」英語の諸構文と統語論（文の構造を扱う分野）の基礎概念及び統語論における論証の仕方を多くの演習問題を解くことによって学びます。

【野添 聡】 ドイツ語や英語などを含むゲルマン諸語について、歴史的な観点から研究しています。とくに、中世のドイツ語圏における言語の様相や、その言語で書かれた文献の内容について、古典語（ラテン語・ギリシア語）の文献と比較しながら考察しています。中世ヨーロッパ文学の成立と伝播、そして記録媒体である羊皮紙写本など、中世の言語文化全般に関心を持っています。

主な担当科目 「**ラテン語演習**」ラテン語文法を習得した学生を対象に、文法事項の復習をかねて、ラテン語文献の講読を行います。代表的な古典作品の原典に触れることで、古典古代の言語文化に対する素養を身に付けます。

英語圏文化専修

【舘 美貴子】 アメリカ文化論・文化史を専門としており、第二次大戦後の大衆文化と社会運動の相関について音楽を基軸として研究をしています。特にフォークソングとカントリー音楽に焦点を当てて、冷戦期における文化外交や社会運動における音楽の役割についての比較分析や、保守派の巻き返しと文化戦争のなかで音楽が政治的に利用される様相についてトランスナショナルな視点も取り入れて研究を行っています。

主な担当科目 「**アメリカ文化論**」映画や音楽を糸口として、アメリカの文化と歴史を学びます。例えば「アメリカ文化論a」では、ベビーブーマーの主人公の半生を描いた映画を少しずつ見てゆき、映画で描かれた史実と描かれなかった史実を学ぶことによって、戦後史の知識を得るだけでなく、ポピュラーカルチャーの政治性についても考察します。

「**芸術メディア論演習**」アメリカのポピュラー音楽の歴史を英語資料を用いて学びます。例えばブルーズやロック、カントリーなどの主要な音楽がどのように生まれ発展したのかについて、映像なども用いながら、歴史や社会的な背景も含めて批判的に学習します。

【アンドリュー・レイメント】 My specialism is twentieth and twenty-first century literature, particularly so-called 'modern' and 'postmodern' texts. I have a particular interest in the intersection of philosophy and literature, especially the notion of the textual unconscious.

主な担当科目 「英語圏文学論」 This lecture course examines three examples of English fantastic literature from different periods: a nineteenth-century Gothic novel (*Dr Jekyll and Mr Hyde*, by R.L. Stevenson), a twentieth century SF novel (*Man Plus*, by Frederik Pohl) and a twenty-first century Fantasy novel (*The Prisoner of Azkaban*, by J.K. Rowling). The course compares fantastic writing from different periods in English literature to see the different ways in which Gothic, Science Fiction and Fantasy texts use fantastic elements for real-world critique and focuses on how the texts present monsters and monstrosity.

【山本 裕子】 20世紀アメリカ文学、とりわけWilliam Faulknerを中心とした南部文学を歴史・文化的文脈から研究しています。最近の関心は、モダニズム期における文学変容と視覚文化形成との相関関係にあり、写真家とモダニスト作家との相互影響関係について考察しています。

主な担当科目 「アメリカ文学史」 アメリカにおける文学の歴史を、その背景となる社会や文化の流れとあわせて概観します。19世紀を扱う「アメリカ文学史a」と20世紀を扱う「アメリカ文学史b」が毎年開講されています。主要作品の原文の抜粋を通して、様々な作家の文体に親しみます。

ヨーロッパ文化専修

【大森 雅子】 専門は20世紀ロシア文学・文化。ロシア革命以降の文学作品を同時代の社会的・文化的コンテクストから読み解く研究を行っています。また、ソ連時代の絵入り風刺雑誌やプロパガンダ・ポスター、アニメーションなどの視覚メディアにおいて、敵と味方、ヨーロッパとアジア、日本がどのように表象されているか考察しています。近年は、日本におけるソ連文化の受容についても関心があり、比較文化論的視点から研究しています。

主な担当科目 「比較文化論演習」 19世紀末から現代までのロシアで創作された文学作品や映画、オペラにおいて、アジアをめぐるイメージや想像力がどのように表象されてきたかという問題について、欧米の芸術作品の事例と比較しながら考察を深めます。

【小川 佳章】 中世スペインを専門にしています。これまでは『よき愛の書』（14世紀半ば）、『ルカノール伯爵』（同）、『アレクサンドロスの書』（13世紀）など、スペインですら忘れられているような古い書物を研究してきました。近年は、日本の仏教説話とスペインのキリスト教文学に共通のモチーフを探し、その現れ方を比較しています。

主な担当科目 「スペイン語」協定校であるサラマンカ大学は、ヨーロッパで最古の部類に入る名門大学です。先輩たちの中には、3年次ここに留学を果たした方もいます。そのためにはおよそ2年半でスペインの中等教育修了程度のスペイン語力を身に付ける必要があります。特に語彙の面でハードな授業となります。向上心の強い学生たちの受講を期待します。

「スペイン文学講読」 スペイン文学演習と隔年で開講し、内容には連続性があります。本年度から、ピオ・バロツハの『知恵の樹』（1911年）を原文で読んでいきます。医師でもあり、現代スペインの思想に強い影響を与えた作家の青春小説は難解ですが、読み通した後には大きな達成感が得られることでしょう。

【高田 梓】 専門はドイツ語圏現代文学。スイス出身の現代作家クリスティアン・クラハトの作品を研究しています。またドイツ再統一後の1990年代以降、20世紀の記憶は文学作品にどのように表れているかを、社会や世代の観点から考察しています。

主な担当科目 「ドイツ文学演習」 グリム童話やゲーテなどの古典作品から、再統一後のドイツを描いた同時代作品まで、さまざまな文学作品をドイツ語の原文で読み、文学研究に必要な読解や分析の力を身に付けていきます。

「ドイツ文化論演習」 ドイツ語圏の文学や映画、美術、音楽など、参加者各自が選んだテーマに関して研究発表を行います。授業では研究発表の他に、ドイツ語文献の読み方を学び、また卒業論文に向けてのアドバイスや指導を受けることができます。

【高橋 知之】 専門はロシア文学。19世紀半ばのロシア文学について研究するとともに、文学作品の翻訳も行っています。日露近代文学の比較にも関心があります。授業では原典の精読にくわえ、翻訳でロシア文学をたくさん読むことにも力を入れています。また、ロシア文学の領域を越えて比較文学的手法でのテキスト分析についても講義しています。

主な担当科目 「スラヴ文化論演習」ドストエフスキー『罪と罰』やトルストイ『戦争と平和』など、ロシア文学を代表する長篇小説を翻訳で読破する演習です。種々の事典・文献を参照しながら作品を分析する作法を学びます。

【橋本 知子】 フランス文学、主に「写実主義」におけるミメシスの問題を、同時代言説との比較や歴史的な文脈を通して分析しています。また小説作品の映画化における、ことばによるイメージと映像によるイメージの関係についても考えています。

主な担当科目 「フランス文学演習」比喩表現が用いられると、ことばにイメージが広がります。そうしたフランス語の豊饒さを、小説・映画・批評文を通して学びます（リアリズム小説、幻想小説、ヌーヴェル・ヴァーグの作品群など）。

「フランス文化論」長編小説を取り上げ、フランスの文化、歴史とともに、小説技法を学びます。そして読むことの困難さについて考えます。

超域文化専修

専修を超えた学びを可能にするため、国際言語文化学コース全教員が所属しています。

※教員の研究実績の詳細については、千葉大学文学部ホームページの教員要覧をご覧ください。<https://www.l.chiba-u.jp/applicants/teachers/index.html>



▲サハリン研修旅行での様子



◀ フランス語の授業風景。フランス語の音楽性を楽しむようこころがけています。

▶ ラテン語入門の授業風景。ラテン語の文法を基礎から解説しています。



◀ 人文科学入門の授業風景。1年次の必修科目で、言語や言語文化を学問として学んでいく上での基礎を修得します。図書館での実習や院生による研究・大学院紹介も行われます。

▶ 「ロシア文化論演習」の授業風景。文学テキストの講読のほか、映画、演劇、オペラ、バレエ、美術を取り上げ、芸術大国ロシアを知るための基礎を学びます。



◀ 「ロシア文化論」19世紀、20世紀のロシア文化を代表する作品（文学、舞台、映画、美術など）を取り上げ、解説します。ロシア文化史を概観するとともに、その奥深い世界へ案内する講義です。

▶ 「スペイン語会話」ただ文法を理解しただけで終わるのではなく、スペイン語を使えるようになるため、実践的な練習を行います。担当教員はスペイン語母語話者です。



◀ 来日した協定校の教授・ロシア人留学生との交流授業の様子

▶ 「ドイツ語会話」ネイティブスピーカーの教員のもと、実践的な会話や作文練習を行います。例年、短期または長期でドイツ語圏に留学へ行く学生も多く見られます。



◀ 「フランス語会話」フランス語会話とフランス語作文の授業では、ネイティブスピーカーの教員のもと、和気藹々とした雰囲気の中、理論と実践の双方からフランス語を学びます。

■在學生からのひと言 ー国際言語文化学コースに学んで……

Mさん／国際言語文化学コース 2年

本コースの国際言語文化学というのは、欧米圏の言語をベースとして、文学や歴史、芸術などの文化を見つめることだと自分は解釈しています。それゆえ、本コースで特に重視されていることのひとつは外国語学習です。2年次に選択する英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語などの専門外国語のほかに、ラテン語や古代ギリシア語のような古い言葉を学ぶことができます。自分の学んでいるロシア語を例に挙げると、いわゆる第二外国語としてのロシア語以外に、発展的なロシア語、ロシア語学、ロシア語会話、ロシア語演習と外国語学習だけでも多彩な授業が用意されています。これらに加えて文化を探求することも重要視されており、ロシア文化論などの外国語をベースに諸外国について学ぶ授業も豊富に存在しています。

ここまでだと、いわゆる外国語学部のようなものかと思われるかもしれませんが、本コースはあくまでも文学部であり、哲学や歴史学、心理学そして言語学など外国語学習ではない学問も学ぶことができます。また、外国語というものは海外文化を研究する際に必須となるツールであるため、効率的に外国語を学べる本コースは人文学の探求において大きな意義があるといえます。

自分は社会主義、またソ連文化について大きな関心があり、思想としての社会主義をソ連がどのように解釈し、制度化したのかということの研究してみたいなと現段階では考えています。もちろん、ロシア語も始めたばかりでまだ研究のスタートラインにも立ってはいません。ですが、様々な学問にアクセスが可能で、予想もしなかったところから新たな関心を得ることができるのは、「文化」という広い概念を対象とする本コースならではの大きな魅力だと感じています。

これを読んでいる受験生の皆さんは「外国語」や「世界」にどこか惹かれたのだと思います。ぜひ多彩な言語を通じ、国境や時代を超えてたくさんの人々とつながってみませんか？

Tさん／国際言語文化学コース 4年

本コースでは、主に欧米諸国の言語や文学、文化を学ぶことができます。ここでいう「学ぶ」とは、単に外国語の文章を読んだり、異文化について先生に教わったりすることだけではありません。世界の言語や文化を手掛かりに、自分の頭を使って考え、その考えを表すことだと、私は感じています。例えば、ドイツ文化の授業では、ドイツの雑誌記事を精読したり、ドイツ映画を鑑賞したりしながら、ホロコースト、旧西ドイツ社会、ジェンダーなど幅広い分野について受講者全員で議論し、考察を深めます。また、学生自身が演劇、美術、移民問題のようなテーマを自由に設定し、口頭発表を行うことで、関心のある分野について理解を深めるとともに、他の学生たちと意見を交換する機会にもなります。その他にも、英語圏、フランス、スペイン、ロシアなど、多様な欧米諸国の言語や文化に関する授業も広く履修することができ、他の国との比較を通して、専門とする国についてより深く研究していくことも可能です。

私はドイツ語を専門外国語にしてその文化を学びつつ、主に冷戦を経た旧東西ドイツ国民の価値観がどのように形成されていったのかについて関心を持っています。具体的な研究テーマについてはまだまだ模索中ですが、授業で身につけた知識や多角的な視点を活かしながら、自分の知りたいこと、学びたいこととじっくり向き合うことができる点が、本コースの魅力の一つだと思います。

皆さんは、これまでの学習や経験の中で、少なからず「世界」に惹かれてきたために、本コースに関心を持たれたのだと思います。本コースでは、2年次に専修と専門外国語を決定します。そのため、自分の関心がまだ明確になっていない人も、初めにさまざまな国の言語や文化に触れてから、自分が4年間で本当に「学びたい」ことを選択することができます。自分たちが生きる世界を構成するさまざまな要素について「学ぶ」時間は、きっと有意義なものになるはずです。

大学の キャンパス の施設

■附属図書館 <https://alc.chiba-u.jp>.....

附属図書館は本館（西千葉地区／全分野）、亥鼻分館（亥鼻地区／医学・看護学・薬学関連分野）、松戸分館（松戸地区／園芸学・農学関連分野）の3館で構成され、いずれも同じように利用できます。学生向けの教科書・教養図書その他、学術研究に必要な専門書・学術雑誌を多数収蔵し、ビデオ・DVDなどの視聴覚資料も利用できます。また、インターネットを通じて、国内外の電子ジャーナル・電子ブックなどのデータベース提供も行っています。



■アカデミック・リンク・センター <https://alc.chiba-u.jp>.....

アカデミック・リンクは、千葉大学において「生涯学び続ける基礎的な能力」「知識活用能力」を持つ『考える学生』を育成するために、附属図書館、総合メディア基盤センター、全学教育センターが協力して立ち上げる、教育・学習のための新しいコンセプトです。図書館員・教員・ALSA（Academic Link Student Assistant）が学生の皆さんの学習支援（資料や文献探しの手伝い、分野別学習相談、パソコンやソフトの基本的な操作についての相談）を行います。授業期間の毎週火・金曜日の昼休みには、図書館のプレゼンテーションスペースで無料のショートセミナー「あかりんアワー」（「外国に暮らす」「キャンパスライフ入門」「教員が研究の楽しさを語る」）や催しが開催され、学部を越えて様々な研究領域や文化に触れることができます。



■国際教育センター <https://cie.chiba-u.ac.jp>.....

千葉大学の国際競争力を高めることを目的として、日本語教育及び留学生教育を推進し、国際協力等の国際化に向けた戦略形成及び基盤整備を支援するために設置された学内共同利用教育施設です。留学生に対し、体系的な日本語・日本事情教育と修学・生活上の指導・相談を行っています。留学生・日本人学生・地域の人々が交流できる企画を提供しています。

■イングリッシュ・ハウス <https://www.chiba-u.jp/englishhouse/>.....

外国人講師による個別・グループレッスンやTOEICなどの外国語検定試験対策講座などを受講したり、ラウンジでコーヒーを飲みながら気軽に英語で会話できるコミュニケーションスペースです。イングリッシュコンサートやゲーム大会、映画鑑賞会、クリスマスパーティー、予約不要の「ランチ・チャット」(授業期間中の平日)などが開催されています。



■福利厚生・学生生活支援施設

○総合学生支援センター

上記のイングリッシュ・ハウスの他、1階のフリーエリアは、空き時間の勉強や団らんに利用できます。ボランティア活動支援センター(ボランティア募集情報の紹介・登録)、生協店舗などもあります。

○総合安全衛生管理機構

学生の健康を支援する組織で、西千葉キャンパスにあります。医師、カウンセラー、看護師、検査技師、事務スタッフが常駐し、一般健康診断、特別健康診断などの医療サービスや安全と健康に関する情報を発信しています。

○学生相談室

西千葉・亥鼻・松戸の各キャンパスにあります。カウンセラーが在室し、学生の修学・進路・就職・生活・人間関係など、学生生活にかかわる問題について、なんでも相談することができます。

○リフレッシュ・ルーム

文学部棟や総合校舎には、ちょっとした休息や軽食、読書などに自由に利用できるスペースがあります。

○課外学習施設

サークル会館、合宿所、体育館、陸上競技場、サッカー・ラグビー場、プール、テニスコート、武道場、弓道場、ゴルフ練習場、バレー・テニスコート

○生協 <<https://www.univcoop.jp/chiba-u/>>

西千葉 キャンパス	ライフセンター 千葉大生から通称「ライ セン」呼ばれているお店	広い店内では弁当、文房具、パソコン、千葉大土産等、コンビニよりも幅広い商品を扱っています。店舗の厨房で焼いた焼きたてのパンは好評です。昼休み、授業の合間に多くの学生、教職員が利用しています。
	トラベルカウンター	国内・海外旅行、ゼミやサークル合宿の申込、旅行に関する事は何でも相談できます。運転免許取得の教習所の申し込みも扱っています。
	住まい・アルバイト紹介 カウ ン タ ー	住まい(アパート)紹介、アルバイト紹介、レンタル自転車の取扱、大学入構用の自転車ステッカーの販売など様々なサービスを行っています。
	ブ ッ ク セ ン タ ー	書籍、製本、切手葉書の販売など
	フ ー ド コ ー ト 1 (カフェテリア 食堂)	広々した明るい食堂です。テーブル席の他1人でも利用できるおしゃれな食堂です。好きなものを選ぶ「ビュッフェ」スタイルです。
	フ ー ド コ ー ト 2	ラーメン、うどん、そばなどの麺専門店
	フ ー ド コ ー ト 3	カレー、丼ぶりがある食堂です。
	総 合 校 舎 店 舗	食品や弁当・ドリンクなどの販売
	工 学 部 店 舗	食品や弁当・ドリンクなどの販売

○飲食を提供する場所は、その他、キャンパス内にあるカフェや学生が運営するビズカフェ、また、昼休みに日替わりで開設するキッチンカーなどもあります。

■国際学界との触れあい

文学部には外国出身の教員がおり、また、大勢の教員は留学、海外研修の経験を持ち、日常的にも各々の専門分野で国際的な活躍をしています。教員や研究室を通じて行われる活発な国際交流によって、海外からは様々な領域の研究者がしばしば文学部を訪れ、それを機に特別講義や講演会が開かれたり、各研究室での懇話会などで情報交換がなされ、学生は居ながらにして国際的な学界に直接触れることができます。また、大学院人文公共学府では毎年外国の研究者を集めて国際シンポジウムを開催しており、そこでは学問の刺激的な楽しさを味わうことができます。

■外国への留学

千葉大学では、2024年6月現在285の海外の大学と学生交流協定を締結しています。文学部からも、毎年、学内選考試験に合格して、専門の研究を深めるため様々な大学に留学していく学生たちがいます。また、アラバマ大学、ボーンマス美術大学、アルバータ大学、ブルゴーニュ大学などで語学研修プログラムが実施されているほか、オンラインでの留学プログラムも準備されています。

留学先で専門の勉強をするためには、学びたい内容について千葉大学で関連する授業を受講したり、留学先の大学の授業に参加できるほどの語学力を養うために、外国人の先生の授業を積極的に受講する、英語で書かれたテキストや文献に触れる等しておくといよいでしょう。また、語学力は、TOEFLなどの外国語能力試験が目安となることが多いので、目標を立ててそういった試験にチャレンジすることも大切です。留学は、語学力を伸ばし専門分野の勉強を深めるだけではありません。海外での生活、人々とのコミュニケーションを通じて得られる収穫は人生での貴重な糧となります。

■外国からの留学生

千葉大学の外国人留学生は、アジア、ヨーロッパ、アメリカ各地に及びます。文学部では22名（2025年5月現在）の留学生が学んでいます。留学生の中には、学位を取るために学部や大学院で学んでいる学生や海外の大学からの短期留学生などがいますが、日本語の授業などは別として、基本的には日本人学生と同じ授業に参加し、出身国の生きた情報や多面的なものの見方を教えてくれています。

交流パーティーや留学生による文化紹介が全学レベルで行われている。国際学生交流室チューターによる交流・学習支援活動も活発で、こうした学生同士のおつきあいが、相互理解と信義に満ちた国際的な交友関係の礎になるものと期待されます。

■千葉大学から世界へ.....

異文化理解と自社会貢献を同時に／ハワイ大学環境問題研究プログラム

Sさん／文学部行動科学コース哲学専修4年

凍てつく寒さの中、マスク着用がついに任意になるのではないかと噂されていた2023年2月上旬、僕はマスクはおろか防寒着すら身につけず、タンクトップに半ズボンで過ごしていました。弊学の全学募集留学プログラムを利用して、常夏のアメリカ合衆国・ハワイ州に留学をしていたのです。

皆さんの多くはこう思ったことでしょう。「ハワイに留学？」と。たしかに僕も留学前はそう思っていました。実際このプログラムを選んだのも「2週間と期間も短いし、日本の寒さを避けられるし、何よりハワイなんて絶対楽しいじゃん！」と勉強そっちのけの理由からでした。

しかしながら、留学前の授業で興味深いことを学びました。実はハワイ州は「2045年までに再生可能エネルギーによる発電の比率を100%にする」という政策を掲げています。しかも、日本のような単なる目標ではなく、発電事業者への義務として課しているのです。こう聞くとすでに再生可能エネルギーによる発電の比率が高いように思われるかもしれませんが、2020年段階で再生可能エネルギーの比率はわずか30%ほどであり、70%ほどを火力発電に頼っている状況です。このような状況で、どのようにして再生可能エネルギーの比率を100%にしようとしているのか。そもそもそんなことは可能なのか。火力発電に大きく頼っている日本にとって、これは他人事ではない、これからの日本を考える上でハワイの事例を知っておきたい。そう思うようになりました。

現地での授業は全て英語で行われますが、初日に行われるスピーキングテストの結果によってクラスが分けられるので、自分に合ったレベルで学習することができます。環境問題研究プログラムという名前が付いてはいますが、ハワイの文化や食生活についてなど多種多様なテーマについて講義が行われるので、ハワイについて深く知ることができます。ハワイ大学の学生たちと交流する授業では、それぞれの文化について異文化ならではの視点から深掘りできたので、日本の文化について改めて考えるきっかけになりました。

また、ハワイの文化を体験する時間もたくさんあります。ハワイ大学は中心街・ワイキキまで徒歩30分というアクセスの良い場所にあります。平日の授業は12時半には終わるので、放課後にはワイキキに行ってビーチで泳いだり、ハワイ料理を食べたりすることが多かったです。また、休日には授業がないので、少し離れたビーチまで行ってシュノーケリングをしたり、ワイキキを一望できるダイヤモンドヘッドに登頂したりすることもできました。数メートル先まで見渡せるような透明度の高い海水と、近くを平然と泳ぐ熱帯魚やウミガメを見ると、これらを守らなければならないと思い、環境問題に対する意識も高まりました。

ハワイは日本と大きく異なる自然環境を持っていながら、前述の通り似通った点も多く見受けられます。ハワイ特有の文化を体験しつつも、日本に通ずる問題について学ぶこともできる。そんな学びの多い留学に参加できたことは、僕にとって大きな財産になっています。



▲Certificate授与式にて

コロナ禍での短期留学／レジャイナ大学プログラム 3週間 体験記

Sさん／文学部人文学科日本・ユーラシア文化コース／2025年3月卒業

私は2022年の8月に3週間、千葉大学の全学募集留学プログラムを利用してカナダ・サスカチュワン州レジャイナにあるレジャイナ大学に留学をしました。

新型コロナウイルスが流行中だったということもあって、健康面での不安もありましたが、大学生の間に一度でも海外に行ってみたいと思っていたため、千葉大学の海外渡航プログラムの再開を知り、機会を逃さないために参加を決め、応募しました。

渡航準備の段階でも、必要な各種アプリケーションの設定、所属学部への報告、入国に必要なワクチン接種に関する手続き、抜き打ちのPCR検査についての確認などには、かなり戸惑いましたが、千葉大学の留学生課や、旅行会社のサポートもあり、期日までに手続きを終え、渡航日を迎えることができました。

レジャイナ大学では、大学の寮で生活をしました。日中に行われる授業は、事前にオンラインで受験したテストの結果をもとに、自分の英語のレベルに合ったクラスで学ぶことができました。授業では、基本的な会話、リスニングなどを通してコミュニケーションスキルを磨きました。また、英語でカナダの歴史や文化を学んだり、他の留学生とグループを作り、様々なテーマでプレゼンテーションを作成してクラス内で発表を行ったりしました。プレゼンテーションの準備や、毎回出される課題、授業の復習をこなすのは、はじめのうちは大変でしたが、少しすると、学習のペースをつかみ、「もっとこうしてみよう」というように考える余裕も生まれました。

土曜日と日曜日には授業がなかったため、他の留学生やレジャイナ大学の学生と、バスで博物館や農場、マーケットなどに出掛けました。博物館では展示のスケールの大きさに感動し、農場では広大な麦畑に驚きました。

平日でも、授業や課題がない時間ができると、バスでダウンタウンに買い物に行ったり、カヤックに乗ったり、レジャイナの町の様々なところに出かけました。外出をするときには、自分の持ちうる英語力の全てを使って、公共交通機関を利用し、お店に入り、注文をするということが体験できました。いざとなると、うまく言葉が出てこないことが多くあり、落ち込むこともありましたが、レジャイナの方はとてもやさしく、何とか言いたいことを理解してもらうことができました。

留学を通して、レジャイナに住む人々や、レジャイナ大学の学生の方ともコミュニケーションを取り、さまざまなワークショップなどの催しを通して、英語で異文化に触れる機会がたくさんありました。今回参加したプログラムでレジャイナ大学の案内をしてくださった学生の方々は、メキシコ、韓国、イギリスなど、様々な出身の方がいて、多様なルーツを持っていました。カナダの大学にいながら、さまざまな国の話や考え方にふれることができました。

留学先では、普段日本語で行っている、町に行く、物を買う、食事をする、洗濯をする、バスに乗る、勉強する、質問をするといったことのすべてを英語で行うことになります。とても緊張し、うまく伝わらないと落ち込むこともありましたが、伝えようという意思を捨てずに、努力することが大切であると学びました。不安もありましたが、全員留学を利用して留学することができて本当に良かったです。



▲レジャイナ大学の校舎です。

新たな自分との出会い スペインでの長期留学

Kさん／国際言語文化学コース／2023年3月卒業

私は3年次の9月から4年次の6月末まで、大学の派遣留学制度を利用してスペインのサラマンカ大学で長期留学を経験しました。大学入学時からスペイン語を専門的に学び、最終的には長期留学に挑戦するという目標がありました。派遣留学に参加するには留学開始の1年ほど前に学内選考があるので、大学1年次は必要な単位を取ることに集中し、2年生になって少し時間的な余裕ができたところで、留学の情報収集や語学試験など、本格的な準備を開始しました。(準備は早いに越したことはありません。特に選考時までに必要な語学の資格は早いうちに取得しておいた方が良いでしょう。)

サラマンカ大学を留学先として選んだ理由は、学びたい翻訳分野のコースが開講されていたことと、学生の街なので治安も良く、比較的過ごしやすかったからです。

派遣留学の最大の魅力は、なんといっても現地の学生と同じ教室で、同じ授業に参加できることです。テストや課題も現地学生と同じレベルが求められるので苦労することも多かったのですが、この留学プログラムだからこそできた貴重な経験でした。グループワークが多かったため、スペイン人と交流する機会にも恵まれていました。嬉しいことに、ポップカルチャーの影響で日本に興味を持っているスペイン人が多く、友達作りに困ることはありませんでした。世話好きで親切な方が多く、グループワークや課題も助けを求めればいつでも手伝ってくれました。テスト期間はカフェや図書館で一緒に勉強しました。

この留学は、単にスペイン語漬けの環境に身を置くだけではなく、一度立ち止まって自分と向き合う時間を与えてくれました。今まで日本人的な価値観に囚われていた私は、「必ずしも他人と同じ意見じゃなくてもいい」ということを学びました。今まで無意識に人に合わせることを善としていましたが、ある時スペイン人の友人に「意見が違うのは当たり前だし、意見を出し合って話し合うことで、そこから一番いい結論が導き出せるんだよ」と言ってくれたことがきっかけで、常に自分はどう思うのかを考えるようになりました。当たり前のことと思うかもしれませんが、集団主義的な日本社会で育ってきた私は自分を抑えることが癖になっていたのかもしれない。

それともう一つ自分を大きく成長させる契機となったのは、スペインで初めて経験した親元を離れての一人での生活です。それまで家事はほとんど両親に任せっきりで、料理も勝手に「自分にはできない」と思い込んでいましたが、嫌でもやらなければならない状況に追い込まれてやってみると、だんだんと家事も工夫して楽しんでできるようになっていきました。帰国した今でもできる範囲で家事や料理は続けています。

このような経験から、帰国後は以前よりも何かに挑戦することが怖くなくなりました。

留学を通して得た知識や出会いは私にとってかけがえのないものです。私は大学卒業後に再びスペインに戻り、スペインの大学院で修士号の取得することを決意しました。道のりは平坦ではないかもしれませんが、自分の選んだ選択に納得できるよう努めていきたいです。現地の学生と時間を共有し勉学に励むことができる貴重な機会は滅多にないので、少しでも興味がある方はぜひ派遣留学に挑戦してみてくださいと思います。応援しています。



▲友人の卒業式に参加した際の写真



■千葉大学との大学間学生交流協定締結校（一部）

国	派遣先大学
アメリカ	ニューヨーク州立大学 ストローニーブルック校
	イリノイ大学 シカゴ校
	アラバマ大学 タスカルーサ校
	カレッジ・フォー・クリエイティブ・スタディーズ大学
	アリゾナ大学
	ウィスコンシン大学 ミルウォーキー校
	シンシナティ大学
	ニュースクール大学
カナダ	アルバータ大学
中華人民共和国	上海交通大学
	南京信息工程大学
	北京印刷学院
	魯東大学
	湖南大学
	南京農業大学
	中国農業大学
	貴州大学
	中央民族大学
	清華大学
	安徽医科大学
	浙江大學
	浙江工商大学
	新疆師範大学
	韓国
朝鮮大學校	
ソウル国立大学	
延世大学校Miraeキャンパス	
金剛大学	
台湾	南台科技大学
	国立陽明交通大学
	国立台湾大学
タイ	カセサート大学
	マヒドン大学
マレーシア	サラワク大学
	マルチメディア大学
インドネシア	インドネシア大学
	ガジャマダ大学
	ウダヤナ大学
	ハサヌディン大学
	バジャジャラン大学

国	派遣先大学
オーストラリア	モナシュ大学
	マッコーリー大学
	RMIT大学（ロイヤルメルボルン工科大学）
メキシコ	グアダハラ大学
インド	インド情報技術大学ジャバルプール校
ベトナム	ノンラム大学
カンボジア	王立プノンベン大学
ニュージーランド	マッセイ大学
スペイン	バスク州立大学
	サラマンカ大学
イギリス	グラスゴー美術大学
	ノーザンブリア大学
ポルトガル	IADE
ギリシア	テッサロニキ・アリストテレス大学
ドイツ	ゲッティンゲン大学
	デュッセルドルフ大学
	ライプツィヒ大学
	ハイデルベルク大学
	ドレスデン応用科学大学
ハンガリー	デブレツェン大学
スウェーデン	リンショーピン大学
スイス	ベルン応用工科大学
フィンランド	セイナヨキ応用科学大学
	東フィンランド大学
	ラップランド大学
	ユヴァスキュラ大学
	アールト大学芸術デザイン校
フランス	パリ東大学
	レンヌ大学
	ブルゴーニュ大学
イタリア	ローマ大学ラ・サピエンツァ
ロシア	ロシア人文大学
	モスクワ国立大学
	サハリン国立総合大学
	リャザン国立大学
	ロシア国立沿海地方農業アカデミー
トルコ	ロシア国立研究大学高等経済学院
	アクデニス大学

■就 職

本学部における高い学習到達度の結果として、卒業生の就職状況は相対的に安定しています。進路は、就職と進学に大きく分かれますが、就職を希望する場合にはほとんどの学生が希望通りに就職しています。就職先の業種は、製造業、情報・通信業、金融・保険業、運輸・郵便業、教員・教育支援、公務員などあらゆる方面にわたっています。大きな傾向という点から見れば、他の学部と違いがあるわけではありません。ただ、その中でも、毎年一定の割合で、新聞社、通信社や出版社などを含む情報・通信業、教員、国公立大学職員などを含む教育支援などの方面に進んでいることは文学部の卒業生の特徴だと言えるでしょう。公務員に進む比率も相対的に高いのですが、専門性を評価されて文化行政、生涯教育、広報、観光などの方面で活躍している卒業生も多くいます。

就職戦線に対応するため、文学部では各コースの学生委員を中心に就職ガイダンスに力を入れています。内容としては、次のようなものが挙げられます。①外部から就職関連の専門家を招き、経済状況や企業のあり方、就職の心構えなどをきく、②マスコミ、公務員、教員、流通など多様な職種についてガイダンスを行う、③資料請求から面接の受け方まで具体的な助言をする、④卒業生から就職活動と就職後の仕事について、具体的な話をきく、……など。また就職相談室や各コースの学生委員は就職活動をめぐる学生たちの相談の窓口として、きめ細かなアドバイスをしたり悩みをきいたり励ますなど、できる限りの援助を試みています。

また文学部では、就職に関連する授業科目にも力を入れています。「現代社会で働くこと」(文学部共通基礎科目)では、文学部同窓会と連携し、本学部の卒業生を社会人特別講師として委嘱し、自らの職業体験を語ってもらうことを通じて、人文学を専門的に学んだ文学部学生がどのようにキャリア形成をしていくのか、自らの将来を考えてもらう機会を提供しています。さらに、社会的実践能力を涵養するために、インターンシップ・フィールドワーク科目を設置し、国内外で実施しています。留学や国際インターンシップ、国際ボランティアに積極的に取り組んだ学生が、その経験を評価されて就職に至るといった事例も成果として現れ始めています。

同窓会の協力に基づき、平成7年以降の卒業生に対して、在学中の学業成果等についてのアンケートを行っていますが、卒業論文執筆の過程において獲得された論理的思考能力については、就職活動や現在の仕事にも役に立っているなど、在学中の学習に対して高い自己評価が示されています。

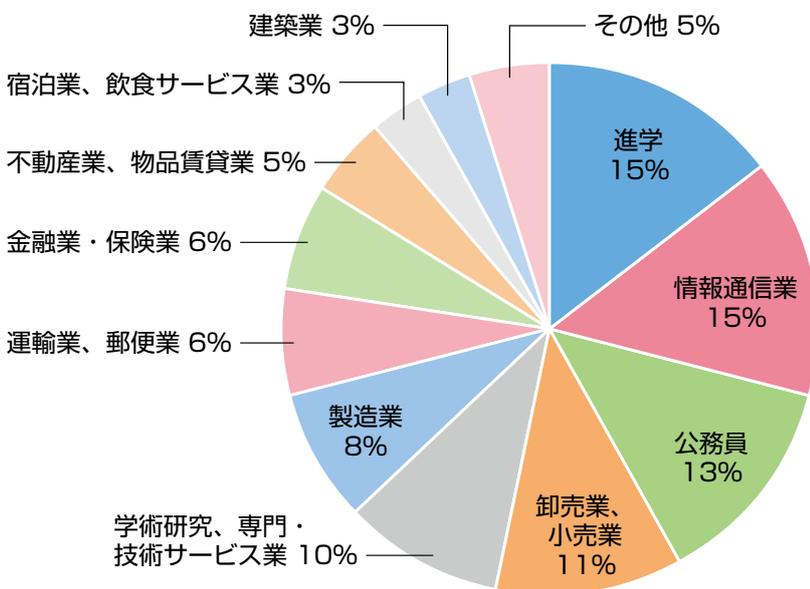
■進 学

学生たちの学習意欲の高まりと、それに対応した各コースのゆきとどいた指導のもと一定数の学生が大学院に進学し、本格的な研究を目指しています。本学部出身の研究者が、大学・研究所等で、あるいは高度な専門知識をもった職業人として活躍しています。

千葉大学には、文学部の専門分野と関係の深い大学院として、人文公共学府と融合理工学府(博士後期課程)があります。人文公共学府は人文社会科学系の多様な学問領域を網羅し、2年を標準的な修業年限とする博士前期課程と、3年を標準的な修業年限とする博士後期課程をもつ5年一貫の区分制大学院です。5年一貫といっても、博士前期課程のみを修了して修士の学位を修得することも可能です。博士前期課程修了者の進路の一つは博士後期課程への進学ですが、公務員や教員、あるいは情報サービス、出版、保険などの一般職に就く場合、学芸員などの専門職に就く場合もあります。

卒業生の進路（令和6年度卒業生）

行動科学コース



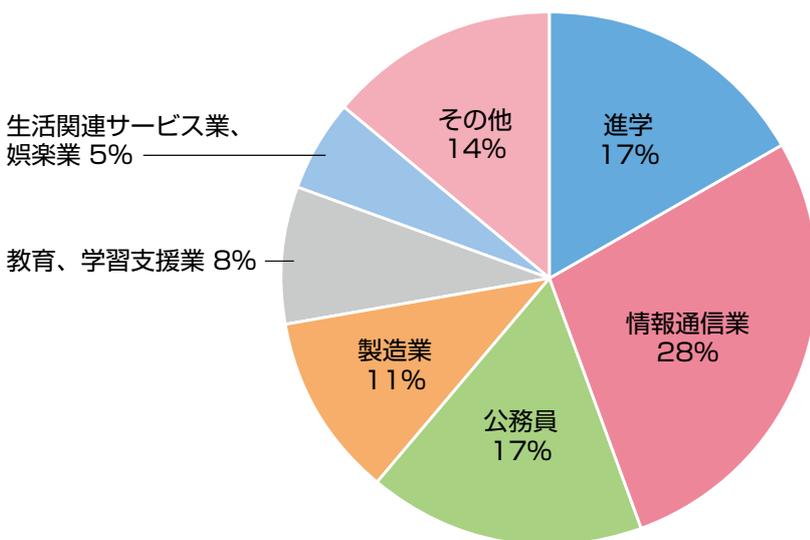
《主な就職先》

東レ、フジパングループ、三井化学、富士ソフト、ANAシステムズ、elematec、三菱商事ロジスティクス、クスリのアオキ、三菱商事ロジスティクス、東日本旅客鉄道、第一中央汽船、ゆうちょ銀行、日本ハウズイング、長谷工コーポレーション、ライズ・コンサルティング・グループ、読売広告社、アパホテル、すかいらーく、夢真、(国)千葉大学、千葉県庁、江戸川区役所、横浜市役所、東京税関、神奈川県庁

《主な進学先》

千葉大学大学院、東京大学大学院、東京都立産業技術大学院大学、帝塚山学院大学大学院、九州大学大学院

歴史学コース



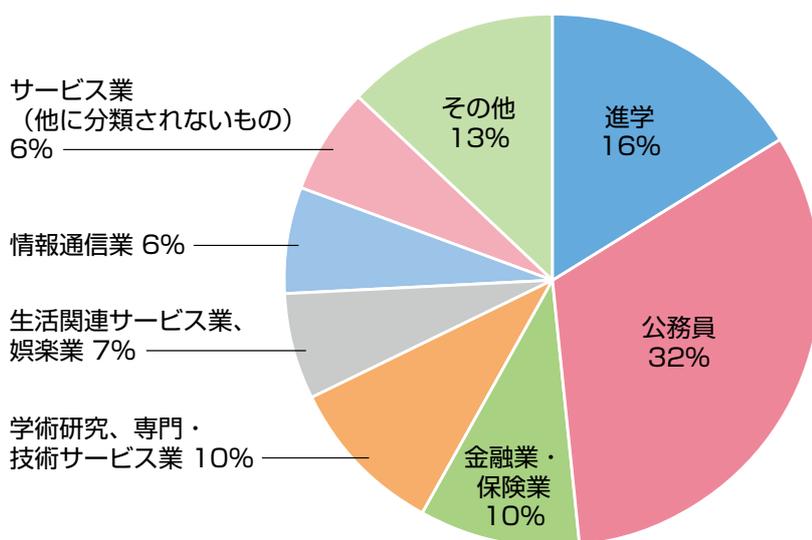
《主な就職先》

TOPPAN、図研、三菱重工業、常盤薬品工業、FBS、メディアバスターズ、情報技術社、NTTデータグループ、サンウェル、アイ・イー・シー、TORIHADA、Kスカイ、ブリヂストンタイヤソリューションジャパン、ブライエッジ、ヒューリックホテルマネジメント、ワタナベエンターテインメント、北欧旅行フィンツアー、公立高等学校、公立中学校、陸上自衛隊、千葉県庁、江戸川区役所、東京都庁、軽井沢町役場

《主な進学先》

千葉大学大学院、東京大学大学院、早稲田大学大学院

日本・ユーラシア文化コース



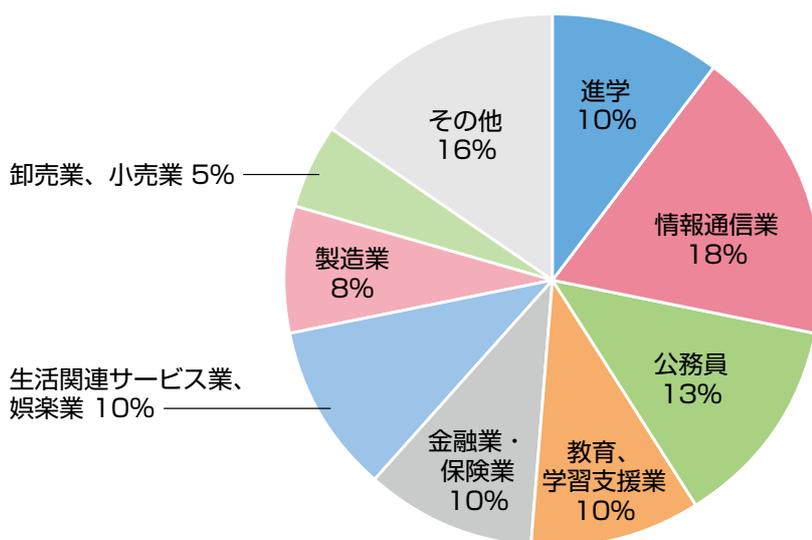
《主な就職先》

セガサミーホールディングス、NTTコムウェア、中日新聞社、エミレーツ航空、フコクしんらい生命保険、千葉銀行、住友生命保険、レバレジーズ、ビーワークス、電通、サントリーパブリシティサービス、宝塚舞台、ファーストコンテック、日本相撲協会、防衛省、防衛省海上自衛隊、国立国会図書館、宮内庁、戸田市役所、千葉市役所、千葉県庁、墨田区役所

《主な進学先》

千葉大学大学院

国際言語文化学コース



《主な就職先》

ゴールドウイン、タダノ、ニデックプレジジョン、日立ハイシステム21、バンザン、ソフトコミュニケーションズ、NTTデータ、JFEシステムズ、ZOZO、日本カストディ銀行、千葉銀行、住信SBIネット銀行、豊昇、東武トップツアーズ、エイベックス、カーベル、JTB、公立中学校、私立高校、臨海、千葉地方裁判所、関東農政局、浦安市役所、墨田区役所、千葉市役所

《主な進学先》

千葉大学大学院、九州大学大学院、海外大学院

千葉大学を受験しようとする皆さんへ

—先輩たちからのメッセージ

Sさん／2022年3月卒業・行動科学コース／公務員

千葉大学文学部案内を手にとっていただき、ありがとうございます。

私が所属していた認知情報科学専修の比較認知研究室では、動物と人間の比較を通して、人間の認知のルーツがどこにあるのかを理解することを目的に研究を行っています。研究室で飼育しているハトを使った実験が中心ですが、ヒトやネコを使った研究も行っており、人間の認知の理解に対して幅広くアプローチすることができます。私は、ヒトの認識と性格特性にはどんな関連があるのかを検討する研究を行っていました。研究生活では、実験プログラムの作成を手伝ったり、実験の参加者を募ったりなど、貴重な経験をたくさんさせていただきました。

人間の認知や行動に興味を持つことは、一見私たちが当たり前に行っていることに疑問を投げかけることで、単に自分の興味関心を深めるだけでなく、社会一般に通用する普遍的な学びを得ることができます。これが、比較認知科学を含め、行動科学を学ぶ強みだと私は思っています。私は現在、国家公務員として、国のお金が予算通りに使われているか検証する仕事に携わっていますが、その業務にも、比較認知研究室での学びで培った探究心が大きく生かされています。

みなさんは、これからの大学生活で得られる学びを、どう将来に生かしていきたいですか？大学選び、学部選びをするこの機会にぜひ、卒業した先の未来のビジョンまでイメージしてみてください。

大学生活は、これまでの生活と比べて、自分の意思で選択する機会が格段に増えます。また、自由に使える時間も多くなります。その貴重な時間を大切に、大学の授業に限らず様々なことに挑戦して、自分の可能性を広げていてください。私も学生時代は、留学、ボランティア、インターンなどを経験しましたが、それでももっと挑戦できることがたくさんあったなと感じています。みなさんも、今の自分の枠にとらわれずに、どうやったらできるだろう？という視点で、やるための方法を探してみてください。そして、大学選び、学部選びが選択の第一歩となる方も多いと思います。みなさんが自分の決断に納得して、新たな一歩を踏み出せることを心から願っています。

Oさん／2020年3月卒業・歴史学コース／公務員

歴史学コースのカリキュラムにおいて、専門地域・分野にとらわれない科目選択は、揺るがない魅力としてあり続けているように思います。それは歴史という人類の営為の壮大な蓄積をただ一面的に把握するのではなく、多角的かつ批判的に捉える視野を養うという点では、非常に効果的であったと顧みることが出来ます。私は文献史学（琉球史、薩琉関係史）が専門であり、くずし字を読解することが最優先でありましたが、考古学の発掘実習や美術史の演習にも参加させて頂きました。それぞれの史料の取り扱いや分析方法について学んだ経験は、自身の専門分野においてはもちろん、様々な史跡等へ足を運んだ際の視点を豊かにし、解像度を引き上げてくれています。

制度上の観点で更に言及すると、卒業論文を指導する教員は学生一人ひとりに充てられますが、他分野のゼミ形式の演習等へ参加することが可能となっています。卒業論文の脱稿に向けては、先行研究と史料状況の把握と課題の抽出、史料の丹念な読解と分析、論の構成、そして幾重にも推敲を重ねる、「過去との対話」が求められます。担当教員の懇切丁寧な指導があっても、方向性に迷うことがありました。その荒波の中で、他分野の教員や学生から助言や指摘を頂けるチャンスがあるというのは、非常に心強く感じていました。そしてそれは逆もしかりで、学生同士で互いに刺激し合い、高め合う場が用意されていました。

このような環境にあつては、経歴も専門分野も大きく異なる学友や先輩・後輩との間に、授業かどうかに関わらず、その垣根を超えて腹を割った議論を可能にする、深く強い関係を築くことができます。オスマン帝国およびトルコ共和国を専門に研究している最も親しい友人とは、同じキッチンカーの井ぶりを食べながら互いの研究について語り合い、日本中世史を専門にしていた友人とは、資料室で膨大な書籍に囲まれながら歴史教育について議論した思い出があります。こうした学友との繋がりが卒業論文を執筆する上での動力源となり、かけがえのない財産となっていることは間違いありません。

千葉大学卒業後、私は他大学の大学院修士課程を修了し、現在は公務員として、男女共同参画関係の部署に所属し、普及・啓発事業を担当しています。仕事上では、歴史学コースで刻みこまれた、上（支配者や権力側）からだけではなく、下（被支配者層やマイノリティ等）からの視点で物事を見ることの重要性を意識しています。ジェンダーバイアスや差別意識の払拭を行政が推し進める意義と、権力の側から社会規範を塗り替えようとする事の危うさの両方を肌で感じ、自らの内にある偏見とも闘いながら業務に従事しています。情報収集を行う際にも、正しい情報の在処を把握し、玉石混交な状態から批判的に精査していく姿勢を自然にとることが出来るのも、歴史学コースでの学びの成果と言えるでしょう。

結びに、本文をお読みになっているあなたが歴史学コースに入学した暁には、その置かれた環境を大いに活用し、充実した学生生活を送れることを願っています。

Hさん／2013年卒・日本文化学科（現：日本・ユーラシア文化コース）
／私学（中高一貫校）教員

人生は選択の連続だと、人は言います。その選択に正解はありません。選択の後に気づきます。悔いがあるかないか。私の大学受験での選択は千葉大学文学部日本文化学科（現日本・ユーラシア文化コース）。卒業して、私学教員という立場を選択。結婚し、二児を出産し、育てるという選択。大学で選択したことすべてがつながって、今の自分があると確信しています。大学で得た仲間、素晴らしい先生方との出会い。大学生活の選択で私が得たものは、多角的なもの見方です。

大学一年生で抱いた不安が、その後の自分の選択肢を広げました。必修の日本文学関係の講義を熱心な態度で受ける友人とは対照的に、私は上辺だけの理解の日々。文学は好きはずだったのに、皆と同じようには、文学そのものに入り込めない自分が、この学科で卒業できるのか。そんな不安を持ちながら受けたユーラシア言語文化論講座で、私は目が覚める思いをしました。ロシアの極寒地域にある先住民の生活を知るのは初めてでしたが「人の営みにはどこで生活していても共通するものがある」と、道がひらけた感覚があったのです。これが、私の追求したいものだ、と。

ひとつの考え方に留まっては新しい視点が得られないと気付いた私は、とにかく動き回り、多くの観点を得ました。中学校と高校の教員免許を取るために教育学部へ、学芸員資格を取るために史学科の実習へ、はたまた、サークル活動やアルバイトと学業とは関係ないところにも時間を使うという選択をしたため、私は瞬く間に大学四年生の春を迎えました。それまでに積み上げてきた「選択」のおかげで、私は、日本文化学科で学べる学問分野のほとんど、教育的観点から見た国語としての文学について、知識を得ていました。一口に「知識を得る」と言っても、先生方に講義をしていただくものもあれば、三年生以上であればゼミ形式で自分が文献などで調べたことを発表するものもありました。どちらの形式も、授業や発表に向けて準備が必要だったため、文献を探し、自分なりに理解できるまで図書館に籠ったこともありました。もちろん、自分の学ぶべき文化についても、様々な学部学科の考え方を活かしながら深めていきました。そうは言っても、文化を専攻にすると決めてからお世話になった卒論担当の先生には、始終で迷惑をおかけしていました。先生は私の話をとことん聞いてくださり、曖昧な卒論テーマを具体的な調査研究対象にまで導いてくださいました。そんな切り口もあるのか、こんな見方もできる…そういった気づきは、学問だけではなく日常生活にも取り入れられることが増えました。

大学時代の選択のおかげで、今、教員として、親としての私には、一つの物事を様々な立場、観点から見る力が備わったのではないかと改めて感じます。これからも何か選択すればするほど、その後の選択肢は広がり、その先の分岐は果てしなく続きます。現在の私の日々の選択が、今後どこでどう影響するか未だわかりません。しかしふと振り返ったときに、10年前の選択は間違っていなかったと自信が持てるよう努力を続けたいと思っています。私の人生の選択肢を広げる第一歩は、千葉大学文学部日本文化学科にありました。

1さん／2022年3月卒業・国際言語文化学コース、2024年3月大学院人文科学専攻修了 ／国立西洋美術館・教育普及室

みなさんはどんなキャンパスライフを思い描いていますか。また、大学を卒業するときどんな自分になっているでしょうか。入学当初大きな目標も将来の夢もなかった私は、文学部国際言語文化学コースを卒業後、大学院に進学し、現在は国立西洋美術館の教育普及室で仕事をしています。私が千葉大学で過ごした6年間は、「人生何かあるかわからない」の連続でした。

中学生の頃から英語の学習や世界の様々な文化を知ることが好きだったため、欧米圏の言語と文化を学べる国際言語文化学コースで学ぶことを志し、なんとか入学を果たしました。入学後1年間は基礎的な知識を中心に学び、2年次にロシア語を専門に選んで、千葉大に留学に来ていたロシア人留学生とも親しくなりました。大学に入るまでロシアについてはわずかな知識しかありませんでしたが、学び始めると文学、芸術、自然など興味と魅力の尽きることのない地域だと気づきました。

また、入学時に「何か資格を取っておこう」と思いなんとなく受講を始めた「学芸員課程」での学びがとても興味深く、現在の仕事につながっています。高校時代は部活動で忙しかったこともあり、大学に入るまで美術館という場所にはほぼ無縁でした。しかし学芸員課程で美術館のバックヤードや展覧会の企画について学ぶと、次第に美術館に足を運ぶことが増え、美術館で働くことに魅力を感じ始めました。卒業論文もロシア美術にまつわるテーマを設定し、学部での4年間で思いのほか美術の世界に魅了されてしまいました。

国際言語文化学コースは大学院へ進学する人が少なく、私自身も当初進学は考えていませんでした。しかし、コロナ禍での勉学に心残りがあったこと、また美術館の求人の多くが「大学院修了」を要件にしているということに背中を押され、進学を決めました。大学院在学時は授業や研究活動と並行して、学外で美術館業務の知見を深めるためにできる限りのことをしました。複数の美術館でインターンシップやボランティアに取り組み、またワークショップの補助をしたりと、さまざまな業務を体験させていただきました。その中でも「教育普及」の活動は、運営に携わりながら来館者の顔が見える位置で働くことができるという点に魅力を感じ、この仕事がしたいと強く思うようになりました。

とはいえ、博物館や美術館への就職は門戸が狭いだけでなく、一般的な新卒就活とは時期や形態がまったく異なっており、非常に難しいのも事実です。なので私は当初一般企業を目指して就職活動していましたが、それでもやはり諦めきれず美術館就活の道に進むことを決心し、幸運なことに良いご縁をいただいて今に至ります。

私は千葉大学で、それまで考えられなかった選択肢や新たな自分の可能性に出会いました。みなさんもぜひ色々なことに会って、じっくり考えてみてください。みなさんが素敵なキャンパスライフを送れるよう、祈っています。



2009年に改修された文学部棟玄関

大学生活について、受験生の皆さんから問い合わせが多い事項をまとめてみました。
また、特色ある卒業論文リスト、入試の倍率一覧などを資料として掲げました。参考にしてください。

Q 大学での授業には、どのようなものがありますか？

A 大学では、4年間で各学部で必要と定められている単位数を修得することで卒業を認定されます。基本的なことは、入学年度に配布される「普遍教育科目等履修案内」と「文学部履修案内」に記載されていますが、文学部では、「普遍教育科目」「共通基礎科目」「専門科目」「自由選択科目」「卒業論文」を履修することになります。授業の形式は、講義、演習、実験・実習などがあり、各コースの専門性に応じてカリキュラムが組まれています。学生は、自分の所属するコース・専修などが定めている必修科目とともに、自分の興味や関心に合わせて選択科目を履修することができます。

Q 他の学部や他のコースの授業を受けることができますか？

A 文学部では、各コース・専修で用意された専門科目を深く勉強することはもちろん、学問の諸領域について幅広く学ぶことができるような教育体制を設け、本来の意味での「教養」を身につけられるように学生や社会の期待に応えるよう努力しています。これは、特定の専門分野の知見だけに限定されず、自分の設定した問題をより広い視野から理解できる能力を養うためでもあります。具体的には、自分が所属するコースの「専門科目」だけではなく、全コースの教員が提供する共通基礎科目を履修するシステムになっています。また、自由選択科目として、文学部だけではなく、他学部も含めた千葉大学で開講されているさまざまな授業を履修し、卒業要件単位に含めることも可能です⁽¹⁾。

Q 卒業論文について教えてください。

A 卒業論文（卒論）は、最終学年の4年次に、各自が大学で学んだことの総決算として、自分の研究テーマについて独自に調査や実験などを行い、その結果についてまとめて提出するものです。文学部では、コースや専修によって、その形式やスタイルなどは異なりますが、いずれも卒業論文を重視しており、卒業論文の作成にかかる時間や労力は大きなものです。学生にとっては、自分の大学生活4年間の総決算でもあり、自分の関心にもとづいて優れた卒業論文を書き上げることは、自己の大学生活の成果の最大の成果でもあり、大きな満足につながります⁽²⁾。各コース、専修では、学生個々人が持つ問題や関心を生かしつつ、優れた卒業論文を作成するために、各教員が積極的にサポートする体制を作っています。最近では就職活動との兼ね合いで、卒業論文の作成にかかる時間の確保が難しいと考える学生もいますが、結果的には、充実した卒業研究を行った学生ほど、就職先も希望通りになるというケースが多いのが事実です。何事にも熱心かつ誠実に取り組むことがよい結果につながるということでしょう。

注(1) 開講科目のすべてが自由選択科目の対象となるわけではありません。たとえば、専門性が高い各領域の実験や実習などでは、一定の専門知識が前提となるため、所属コース・専修の用意したカリキュラムの枠外では受講できない科目があります。

(2) 最近の卒業論文の具体的なテーマについては、次の資料Ⅱ（53～54頁）を参考にしてください。

Q 入学料・授業料の減免制度はあるのでしょうか？

A 授業料は、年額を前期及び後期の2期に分け、銀行口座引落しによって納入することになっています。経済的理由によって納入が困難であり、かつ、学業優秀と認められた場合については、選考のうえ免除（全額又は一部）になる場合があります。また、納入猶予、月割分納の制度もあります。

Q 奨学金はもらうことができるのでしょうか？

A 経済的な理由で就学が困難な学生には、日本学生支援機構が学費の貸与や給付を行っています。貸与月額は、第一種奨学金では自宅通学学生で45,000円、自宅外通学学生で51,000円、給付型奨学金では、自宅通学者で29,200円（第Ⅰ区分）、自宅外通学者で66,700円（第Ⅰ区分）となっています。このほかにも、地方公共団体や民間団体の奨学金、留学生を対象とした奨学金などもあり、それぞれ一定の条件に該当すれば利用が可能です。

資料

資料Ⅰ 一般入試・推薦入試の倍率

千葉大学文学部の過去5年間の受験倍率

空欄（―）は、当該の試験を実施しなかったことを示す。

コース	試験	2025年度	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度
行動科学コース	前期	3.1	4.0	3.6	3.9	3.6
	後期	16.4	13.6	13.6	10.7	14.7
	推薦	3.8	2.9	2.9	3.6	2.2
歴史学コース	前期	5.0	4.8	4.0	4.2	4.8
	後期	22.7	25.7	25.7	24.0	31.3
	推薦	2.4	2.0	2.0	1.2	3.0
日本・ユーラシア文化コース	前期	5.6	4.3	3.6	4.8	4.6
	後期	—	—	—	—	—
	総合型/AO	2.0	2.0	2.0	1.7	1.0
国際言語文化学コース	前期	2.9	3.4	2.4	3.0	3.5
	後期	—	—	—	—	—
	推薦	1.5	1.7	1.7	2.1	2.2
文学部全体	前期	4.0	4.1	3.4	4.0	4.0
	後期	17.4	16.4	15.6	12.9	17.5
	推薦	2.5	2.3	2.2	2.5	2.4
	総合型/AO	2.0	2.0	2.0	1.7	1.0

資料Ⅱ 最近の主な卒業論文題目

【行動科学コース】

哲学専修

- ・知識論証は物理主義を反証するのか—新事実主義の擁護—
- ・「善意のディストピア」は存在するのか—SNSにおける知覚の変化を検討する—
- ・古代ギリシア世界における「舞踊」の位置づけ
- ・郭象の「性分」の思想と荘子の超俗的思想
- ・ロボットは死にうるのか
- ・ロールズ正義論と個人の多様性—障害者の問題を中心に—

認知情報科学専修

- ・音楽が味の評価へ及ぼす影響に関する研究—チョコレートを用いて—
- ・コミュニティQ&Aサービスデータを用いたインターネット検索失敗要因の探索
- ・会話におけるあいづちと親密さの相互の影響
- ・チューブ課題を用いたネコの物理的認知の検討
- ・ハトのstream/bounce運動知覚における多感覚統合の検討
- ・意味共活性化による視聴覚プライミング効果

心理学専修

- ・外集団への排他的判断に、社会的アイデンティティ脅威・システム脅威が及ぼす影響
- ・援助者の行為性・経験性が、第三者の援助者評価に与える影響について
- ・注意課題の難易度が時間長知覚に及ぼす影響の検討
- ・フロー体験における時間感覚の歪みの要因の検討
- ・リスクの伴う利他行動におけるサイコパシー特性の影響と利己主義的プライミングの調整効果
- ・視線手がかり課題における顔表情の影響と感覚処理感受性の関連
- ・情景画像における色欠損の見落とし現象のメカニズムの検討
- ・有彩色物体における記憶色効果についての検討
- ・幾何学的錯視における位置のずれの向きを決定する要因の検討～重力レンズ錯視・ジョヴァネッリ錯視の統一的説明の可能性の探索～

社会学専修

- ・漫才における「ツッコミ」と、それによって生じる笑いの会話分析
- ・現代大学生における“ボランティア”の位置づけについて
—大学生の語りから捉える、自己物語の分析
- ・学校でも家庭でもない子どもの第三の教育の場
—地域の子どもの居場所づくりに取り組むNPO 法人の事例から—
- ・記号論とまちづくりから見る観光地の作られ方
- ・現代学生の恋愛観に見る恋愛関係の目的構造
- ・TikTok における セクシュアルマイノリティの自己表現について

文化人類学専修

- ・「思索」は、埋立地の「未来」を描くのか？—千葉市の埋立地で展開されるローカルなまちづくり実践—
- ・「子ども」たちの規範的コミュニティ—保育園児の相互行為にみるジェンダー形成—
- ・「おいしい」コーヒーはどこから来るのか—スペシャルティコーヒーの流通網の民族誌—
- ・3.11 津波の記憶—千葉県旭市飯岡地区の事例—
- ・遺品の声を聴く—遺品整理からみる遺品のエージェンシー—

【歴史学コース】

- ・身体からみた終戦前後の音楽実践—素人演芸熱と飯能文化協会の活動から—
- ・明治期・陵墓治定過程における「旧藩士」と「旧藩意識」—旧対馬藩士による陵墓運動の事例を中心に—
- ・一七世紀岡山藩におけるキリシタン禁制

- ・16世紀イタリアにおける聖アガタの二面性—セバステアノー・デル・ピオンボ《聖アガタの殉教》を例に—
- ・印旛沼西岸域における墨書土器の研究—上谷遺跡出土の少文字墨書土器を中心に—
- ・縄文時代中・後期の千葉県における子どもの埋葬について
- ・20世紀ニューヨーク市被服産業における革新主義運動の役割と意義—衛生統制合同委員会による産業民主主義の実現と移民労働者の教化—
- ・アニメ『少女革命ウテナ』にみる現代日本における性別越境の可能性
- ・疱瘡見舞い、疱瘡祝いの記録に見られる贈答の変遷—近世後期下野国都賀郡助谷村桑川家の場合—
- ・リファーマ・タフターウィーの「ワタン」概念について—「国民」と「祖国」—
- ・1549年イングランドのデヴォン・コーンウォールにおける反乱の本質—ヘルストンの靴職人ギルドの規約に見る—

【日本・ユーラシア文化コース】

- ・和歌に構築されたジェンダー概念—『古今和歌集』を中心に—
- ・なでしこの文学史—「やまとなでしこ」像の形成—
- ・英訳『方丈記』の比較—「心情語」を中心に—
- ・絵入り版本『曾我物語』考—挿絵に描かれる頼朝と曾我兄弟を中心に—
- ・表紙から見る近世期版本—人情本を中心に—
- ・川端康成『古都』論
- ・翻訳文学作品における三人称代名詞の使用傾向について—欧文脈的要素の検討から—
- ・いわゆる「敬語の誤用」について—「おられる」という表現を中心に—
- ・山形県村山方言の研究—格助詞「サ」について—
- ・宮崎県日向地域方言における確認要求表現について
- ・海南語文昌方言話者間における普通話の使用状況と音声的特徴
- ・富山県の名産品「鱒寿司」に関する社会文化的考察—歴史・変化・存続のための模索—
- ・動物園の地域社会での役割—千葉市動物公園の屠体給餌から見える動物園と地域社会のかかわり—
- ・日本語と韓国語の「断り」における理由表明の比較—理由表明の内容とその反応に焦点をあてて—
- ・kamuyの呼称について
- ・アイヌ口承文芸における婚姻の語られ方について

【国際言語文化学コース】

- ・The English *It*-cleft Construction
- ・A Lexical Semantic Approach to Polysemy
- ・Intertextuelle Analyse auf Plenzdorfs *Die neuen Leiden des jungen W.*
- ・The Significance of Victor Frankenstein's Relationship with Henry Clerval in *Frankenstein*
- ・The Theme of Racial Discrimination against Jews of *The Merchant of Venice* by William Shakespeare and Comparison between Four Productions
- ・Calvinistic Characters Who Formed Joe Christmas' Racial Identity and Personality in Faulkner's *Light in August*
- ・Difficulties of Humanoid Mechanical Life with Ego in Oshii's *Ghost in the Shell 2: Innocence* and l'Isle-Adam's *The Future Eve*
- ・日本のラップミュージックに見られる「戦う女子」という女性像—日米におけるラップミュージックの女性像の比較—
- ・「月影」においてベッケルの色彩表現がもたらす効果—「伝説集」より—
- ・スペイン語の裸名詞句—直接目的語に着目して—
- ・フランソワーズ・サガン『悲しみよこんにちは』の主人公セシルの感情分析
- ・自死をテーマにしたドイツ語圏文学にみる生と死の表象
- ・ホロコースト文学の変遷と受容
- ・「赤いサラファン」と19世紀初頭ロシア
- ・イワン・ビリービンが民話絵本作品に込めた想い

なお、毎年各コースから優秀な論文を選んで収載した『文学部の新しい波』を刊行しています。そこに収載された卒業論文は文学部HPをご覧ください。『文学部の新しい波』は毎年千葉県下の各高校、公立図書館を中心に全国の主要大学にお送りしておりますので、内容はそちらをご覧ください。配布ご希望があればご連絡下さい。

取得可能な資格



■教育職員免許状

本学部を卒業して、中学校・高等学校の教員になることを希望する学生のために、教育職員免許状取得のための体制が整えられています。教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法に定める科目の単位を修得しなければなりません。本学部で教員の資格を取得できる免許状の種類は、次の通りです。

行動科学コース	中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭一種免許状（公民）
歴史学コース	中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）
日本・ユーラシア文化コース	中学校教諭一種免許状（国語） 高等学校教諭一種免許状（国語）
国際言語文化学コース	中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語）

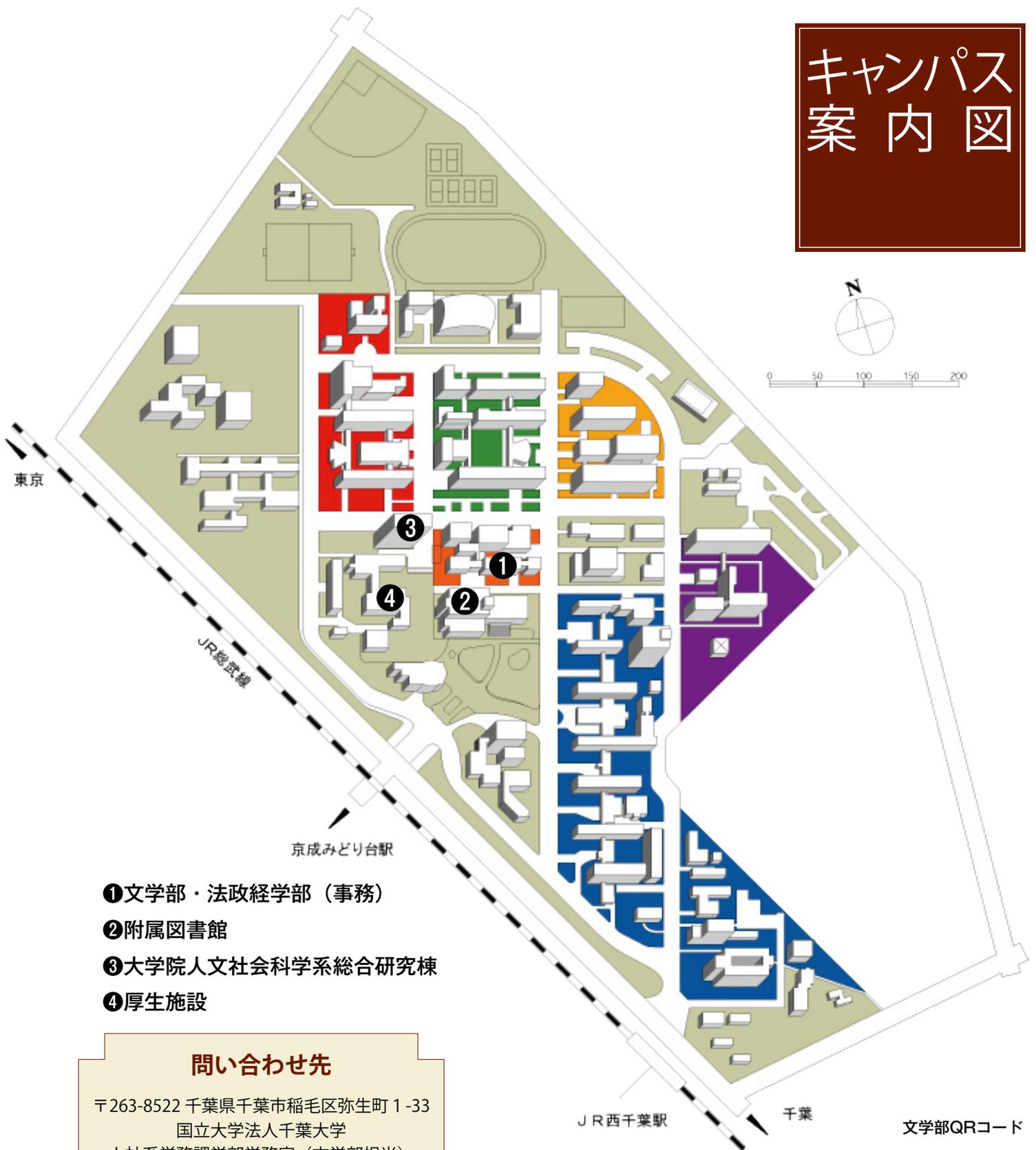
■学芸員

学芸員とは、博物館法に基づき、博物館・美術館などにおいて、資料の収集・保管・展示・調査・研究などの専門的事項を担当する専門職です。学芸員の資格は博物館法第五条に該当する者で、学士の称号を持ち、大学において博物館に関する科目の単位を取得した者などに与えられています。本学の学芸員養成に関わる授業は、文学部や教育学部で開講のものから、全学運営の普遍科目として開講されているものに及び、幅広い知見を有する人材を養成することを目指しています。必要単位を満了した者から請求があった場合、「博物館学芸員資格単位修得証明書」を交付します。

■司書

司書とは、図書館法に基づき、図書館において図書、記録その他必要な資料の収集、整理、保存および提供にかかわる専門的職務に従事する職員です。千葉大学では、文学部を中心に司書資格取得に必要な科目を開講しています。資格取得のための必修科目はもとより、大学図書館や専門図書館に関する科目、現下の社会の情報化の進展にも対応しうる科目を設置し、社会の要請に応える専門的職員の養成を目指しています。

キャンパス案内図



- ①文学部・法政経学部（事務）
- ②附属図書館
- ③大学院人文社会科学系総合研究棟
- ④厚生施設

問い合わせ先

〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33
国立大学法人千葉大学
人社系学務課学部学務室（文学部担当）
☎ 043-290-2351、3631
Mail : bhgakumu@office.chiba-u.jp

JR西千葉駅

千葉

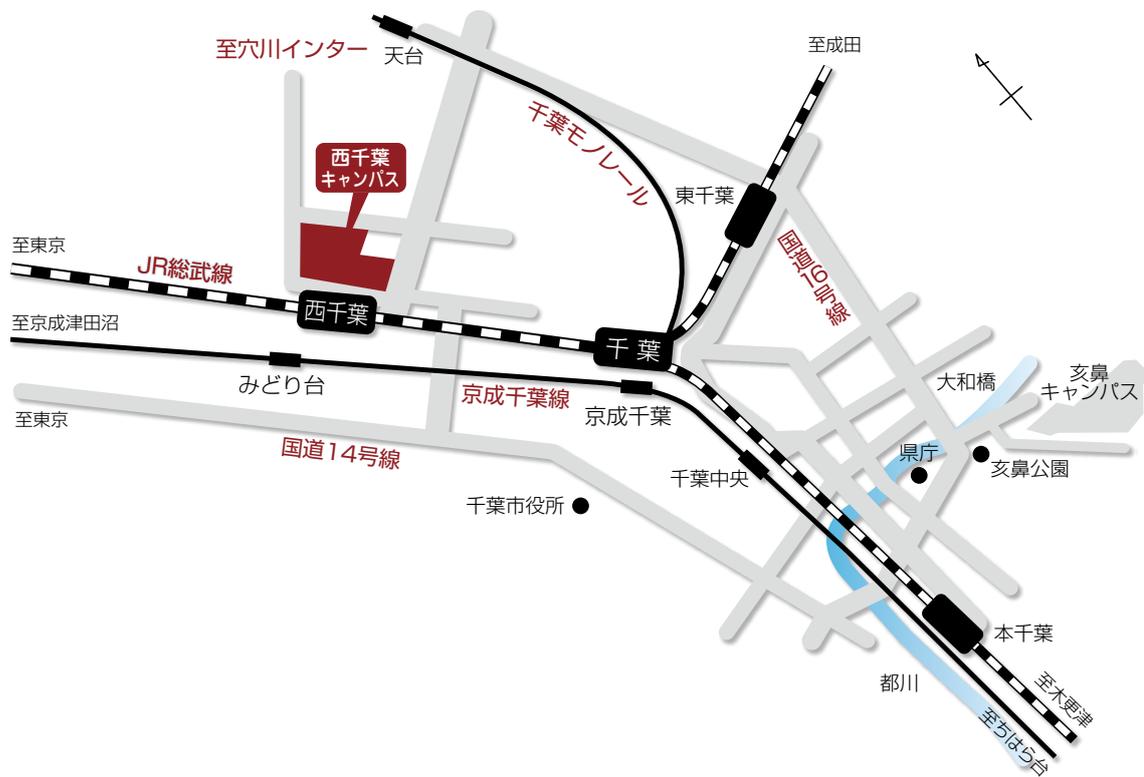
文学部QRコード



ホームページ

<https://www.chiba-u.jp/>（千葉大学）
<https://www.l.chiba-u.ac.jp/>（文学部）

発行 千葉大学文学部
編集 千葉大学文学部広報・情報委員会
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
電話 043-251-1111(代表)
印刷 勝美印刷株式会社



【西千葉キャンパスへの交通経路】

JR 東京	35分 8 駅 総武線(快速)	JR 稲毛	2分 1 駅 総武線(各駅停車)	JR 西千葉				
京成上野	35分 6 駅 京成線特急	京成津田沼	11分 5 駅 京成千葉線	京成みどり台				
羽田空港	14分 1 駅 京浜急行線エアポート快特	JR 品川	45分 10 駅 総武線(快速)	JR 稲毛	2分 1 駅 総武線(各駅停車)	JR 西千葉		
羽田空港	17分 1 駅 東京モノレール空港快速	JR 浜松町	6分 3 駅 山手線	JR 東京	35分 8 駅 総武線(快速)	JR 稲毛	2分 1 駅 総武線(各駅停車)	JR 西千葉
成田空港	41分 8 駅 総武線(快速)	JR 千葉	2分 1 駅 総武線(各駅停車)	JR 西千葉				

